日本初の都市の出現 纏向遺跡を歩く 2012,7,24 & 8,23.

三輪山と巻向山の谷間から流れ出た巻向川の扇状地に位置し 邪馬台国の王都?? と騒がれた纏向遺跡

また 北部九州と結んで 大和で いち早く本格的鍛冶をはじめた遺跡でもある

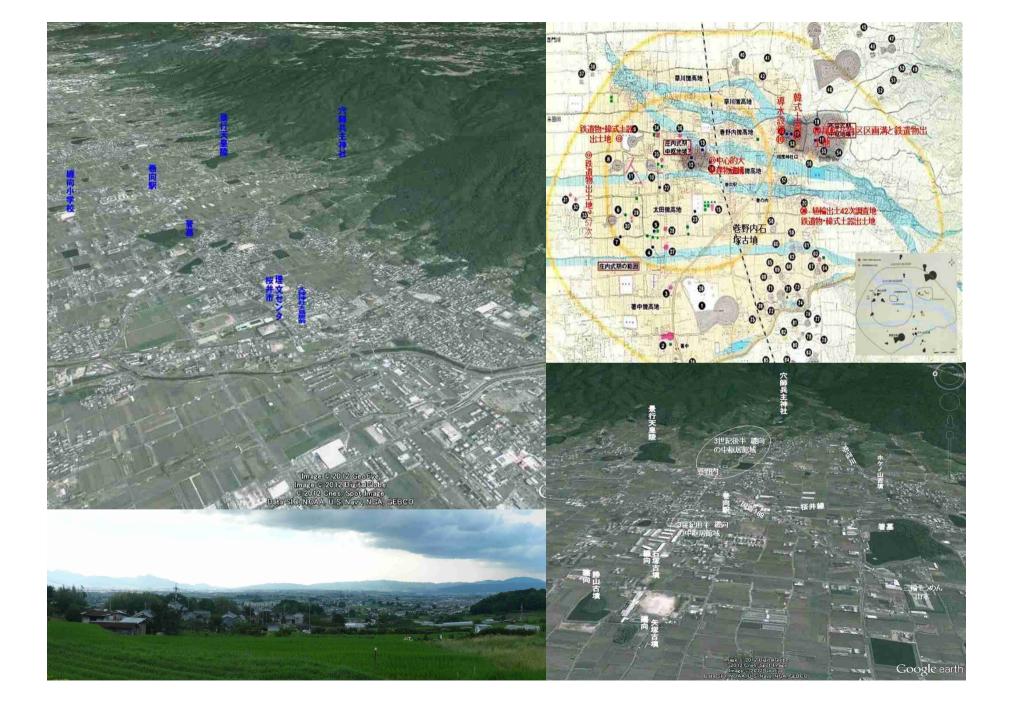


纏向古墳群 石塚古墳から眺める巻向

中央正面の家並の後ろが巻向駅のあたり

- 1. 纏向遺跡 日本における都市の初現 の概要
- 2 邪馬台国の王都?? と騒がれた大型特殊建物群跡と纏向古墳群を見て歩く 2012724 桜井線の西側3世紀前半の纒向中枢地区大田地区と纏向古墳群のある東田地区
- 3 鉄をキーワードに纏向遺跡の謎を探る 纏向再訪walk 纏向遺跡全体を眺め、人工都市の意味と鉄の役割実感

2012.8.23.



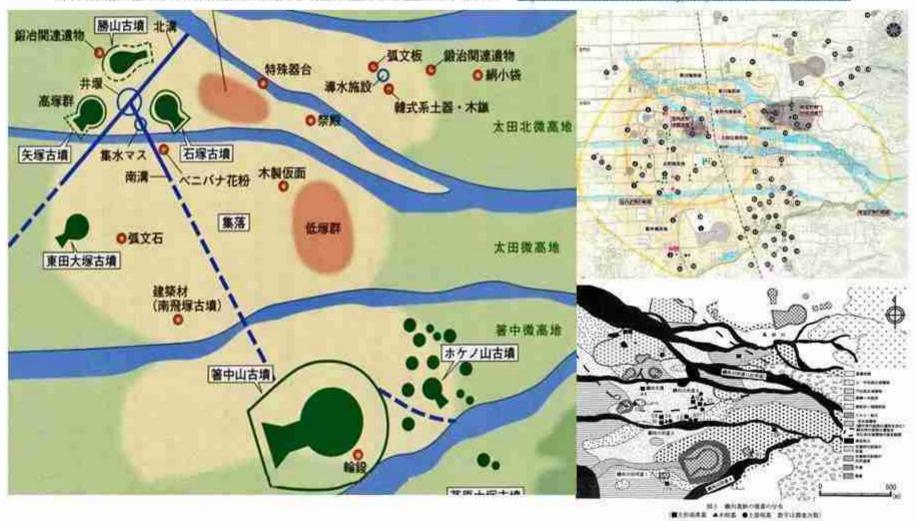


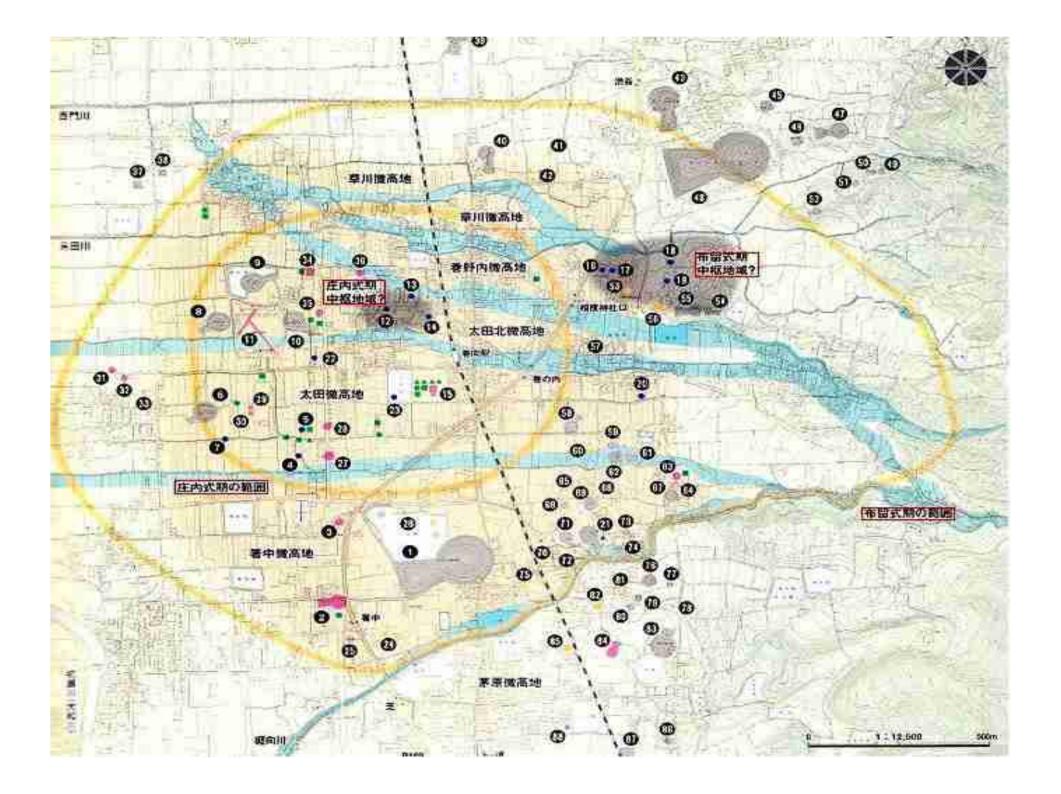
「纏向遺跡では竪穴式住居は全く出土せず、平屋建の建物ばかりが出土。

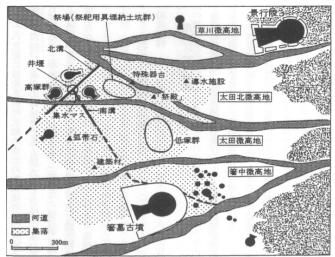
また、水路と見られる深い溝と柵・中心的な大型建物 そして日本各地から搬入された土器 そして居館に付随したベニハナ・鍛冶・木工の工房の存在などを総合すると巻向川が流れ出る扇状湿地を改良した人工都市の出現をうかがわせる」という。

また、この纏向遺跡から出土する鉄器の主は農耕具の「鍬」でなく、「鋤」であること、また、出土した鍛冶遺物で注目すべきは、当時、北部九州にしかない高温の鍛冶技術がこの大和では始めて、この纏句遺跡に持ち込まれている。 (鞴のかまはご型羽口・高温溶融鉄滓・一部鉄器に高温鍛造の痕跡)

橋本輝彦「日本における都市の初現 纏向遺跡の調査から」より http://www.dir.lib.nara-wu.ac.ip/dspace/handle/10935/2741











- **Q** 初基古地
- 母 帯中イツカ古墳
- 姜中ビハクビ占領
- 〇 市州場古港
- ●北京母性区の位置部
- 東田地画の真文石(主が定点部)
- **①** 共国占加
- ❷ 孫山古甫
- 精均石级支撑 (1111年) 5.5
- ① 推向大满
- **企** 让地名内容尼王坎特
- ●近河道出土の銅器と前域暗標
- ●太田諸区の結構登制
- @ 4年101号 曲
- 家ツラ通区の導水施設
- **®** 第7天的区の在文板 managem と特式男士器
- ●定場在地区の医園園と銀冶駅連携機
- ・ 医薬剤花地区の位置状態製品
- の最初が取り場略種
- ホケノ山古場 四次第十四
- 車田地区のベニバナ杉役

- ②メクリカ計区の水製領面
- 財田と坊間(まま)なけー
- 脂肪は皮塊 中国 またいの
- ◎ 宝核各議師 古書
- 期別之母類(四本-6世紀の川)
- 原川 号域 四堆 使发发率
- ヤタイク1 母雄 国際中国民家
- ヤナイタ2号環(三点・1000円)
- 高等1号周内第一位554年前37日第
- ❷ 遊頭2号塘(河道→江町)5—8世紀年)
- 高高3号項
- ●動は東古塔(Sub Elezin subbit/
- 石塔舞古樓 地工用的AM-交易の一部をR#
- ロアノ前吉頃・田田・MERE主
- 班丁田古塔(2001)
- ◎ 工度組書場(方面→皿tim)
- 長冬河水道 (1770年4-4条11119年)
- 图 標本大學古稿 南加里巴纳-全名itm
- 每 基础设置描述的 是20一点和
- 斯朗古籍 計劃
 北京
 北京
- ●上於財五場 前面排門等全員的160年
- ⑤ ラカラ形古項 (n.カ東井は・金折町では)

- ◎ 丸山市場:四個+世前89+1
- 洲巡古墳 方面---国和第四
- シウロウ部古墳の(水田四番・田田川120m)
- 并各等山芸道 3773円4-全を約30%。
- ウンボ市域 (1987)
- ◎ 立于古墳 (826世月中 至美800年)
- 立子探告編 ma-dhami
- 本長女師 un o meno-lego-
- **⑤** 尾菊花古篇 内电电路的
- ② 挑坡山: 等境(m为恒利用-李系4km・加定数)
- 2回対1112号時では大田市場では、東京に、田市市
- **◎** 斯勒加多特博·加西德利森·夏斯47 bell
- **②**北口古前 中面 ensente
- 後對內石條古籍 (東大田内南-北京680~)
- ●サシコマ古語:四番・ロカロー
- 石田古第 1981-199058
- **①** 小川西東古崎 产海 在初4m
- 小川澤西古墳 フ(単一計6年14)
- 图 外田 特培 (四字 世科 154-4日 10年)
- **的**30田2号地(中華
- **国** 在独古塔(本面)
- ●小川参士時(3590)

纏向遺跡の謎









卑弥呼の墓といわれる箸墓よりも早くに築かれた纏向型と呼ばれる出現期の前方後円墳群が3世紀卑弥呼の時代まで溯れるといわれ、箸墓が卑弥呼の墓である信憑性も強まって行く中、2009年11月 纏向遺跡で「卑弥呼の宮殿」と大騒ぎになり、にわかに邪馬台国大和説がもてはやされた。また、鉄の歴史視点から見ると、卑弥呼の邪馬台国連合のつながりは「北部九州に対抗した朝鮮半島の鉄の覇権」との説も提案され、話題を読んでいる。

時は3世紀前半古墳時代前期。日本各地に諸国が生まれ、邪馬台国連合から大和王権へと日本 が大きく変化してゆく時代であり、実用鉄器が国づくりに大きくかかわってゆく時代といわれる。

当時の北部九州の先端技術 高温本格的鍛冶とつながると考えられる鞴の かまぼこ型羽口や鉄滓そして大量の実用鉄器 (鋤) がこの纏向でも出土し、 畿内でも一番早く北部九州の先端技術が入ってきていると見られる。

一方 纏向では 大規模な土木工事による土地改良・日本各地からの人の流入 そして前方後円 墳という巨大墳墓が築かれ、宮殿を思わせる計画的な大型建物も出土し、新しい古代都市出現の 体をなしている。

しかし、纏向遺跡では、農耕の痕跡・竪穴住居群の集落がいまだ出土せず、人の影が見えない。

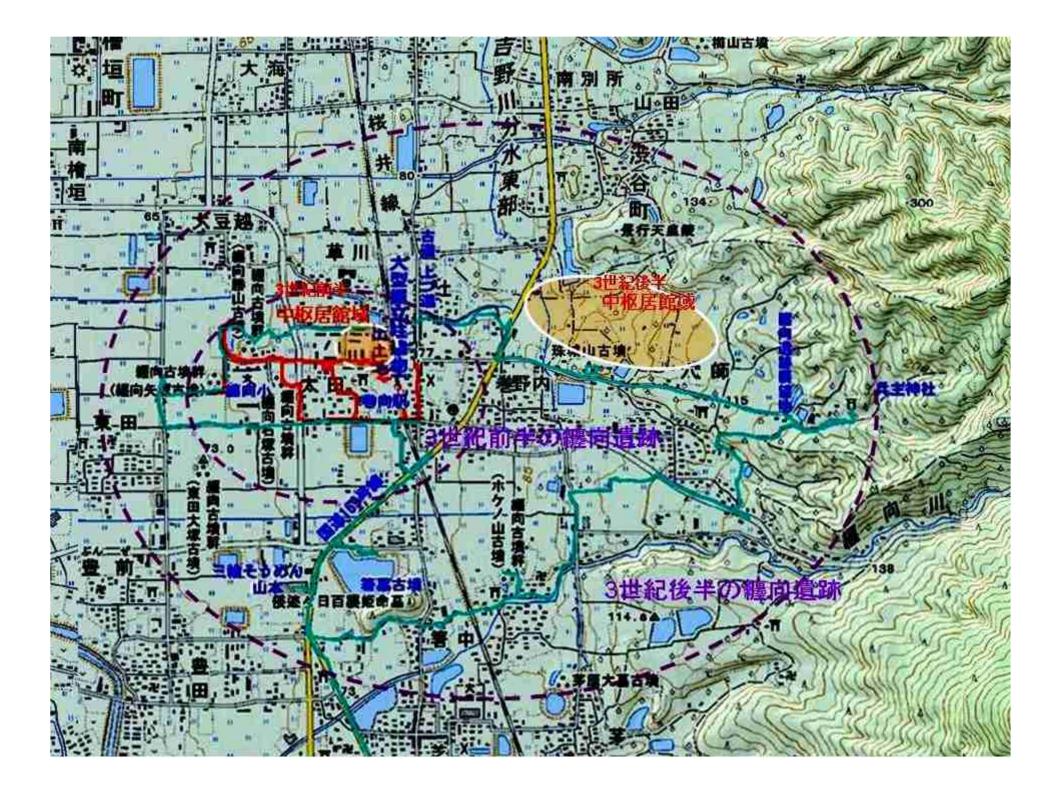
この新しい都市での暮らしの実体がみえてこないのです。

鉄についても北部九州の先進鍛冶技術が流入し、土木工具「鋤」に特化した実用鉄器が出土する以外にほとんど他の鉄器 はない。しかも、厚い大型鉄器である土木工具が出土するにもかかわらず、 鍛冶工房跡もまだ見つかっていない。 輔羽 口など鍛冶具が幾つも出土することから、鍛冶工房が あったことは間違い無いと思われるのですが・・・・

邪馬台国論争の渦中にあるに纏向遺跡。 でも まだ遺跡には未解明の数多くの謎がある。

これらの解決なしには、論争に決着が付けられそうにないばかりか、「日本の幕開け」古墳時代の到来を明らかにすることができない。 また、日本で製鉄が始まってゆく過程を知る上でも この纏向の鉄の解明はおもしろい。

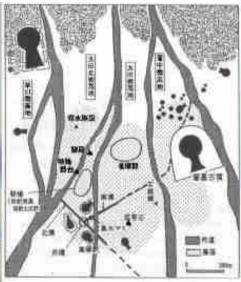
纏向遺跡にはまだ10%にも満たぬ発掘調査が原因かもしれないが、謎が多い。



1. 纏向遺跡 日本における都市の初現 の概要









「纏向遺跡では竪穴式住居は全く出土せず、平屋建の建物ばかりが出土。

また、水路と見られる深い溝と柵・中心的な大型建物 そして日本各地から搬入された土器 そして居館に付随したベニハナ・鍛冶・木工の工房の存在などを総合すると巻向川が流れ出る扇状湿地を改良した人工都市の出現をうかがわせる」という。

また、この纏向遺跡から出土する鉄器の主は農耕具の「鍬」でなく、「鋤」であること、また 出土した鍛冶遺物で注目すべきは、 当時 北部九州にしかない高温の鍛冶技術がこの大和では始めて この纏向遺跡に持ち込まれている。 (鞴のかまぼこ型羽口・高温溶融鉄滓・一部鉄器に高温鍛造の痕跡)

橋本輝彦「日本における都市の初現 纏向遺跡の調査から」より http://nwudir.lib.nara-wu.ac.jp/dspace/handle/10935/2741



纏向遺跡 概要



纏向遺跡は西暦200年頃に出現。その大きさは直系1Kmの円状の区域で、地図の赤枠で囲っ た文字「庄内式期の範囲」が示すオレンジ色で囲まれた範囲で、2009年発掘された大型建物 跡はこの区域の中心部「庄内式期の中枢地域?」と表示された部分にある。

250~260年頃になると、赤枠で囲った「布留式期の範囲」が示すオレンジ色の範囲(およそ 2.5Kmx1.5Kmの区域)まで拡大する。 この拡大期とほぼ同じ時期に今回発掘された大型建 物などはこの場所からはなくなってしまう。その移設先は「布留式期の中枢地域?」と表示さ れた地域であろうと推定されている。

しかも、橋本氏によれば、この時期は箸墓古墳が築かれた時期と合致するとされていて非常 に興味深い。この「布留式期の中枢地域?」は縄文時代末期に大規模な土石流があったこと が確認されており、荒地で弥生時代の遺跡はほとんど出土していない。

この不毛の地に纏向遺跡が成立する200年頃は大和盆地最大の環濠集落である唐古・鍵遺 跡が消滅する時期とも重なっていている。仮に、この区域を「都」であったと仮定すると、後の 飛鳥京よりも広く、藤原京(5.5Km四方)に次ぐ大きさになります。 しかも、この地域は建物の あったあたりを尾根とする南北に緩やかな傾斜地であったものを平に造成したことも判明して http://pub.ne.ip/luckfield/?cat_id=122847 より いる。

郷向海跡の旧地形と墳墓・滑構の分布

旧流路や耐寒地の難開は未確認の部分も多く構物なものではありません。)

- 方形園講幕が確認された地点 ▲ 木棺墓が確認された地点 土路棺墓が確認された地点

- **①** 被恶害烦
- 禁中イツカ古城
- ❸ 酵中ヒハクビ古墳
- ⑥商职规去值
- 企業環境区の住房等
- 東田大塚市増
- ・ 専用抽営の様文石 ▼MX要額
 ・
- 先提古順
- ② 排於自古期
- の 延知石塚古墳 はWESVAL
- 母 經前大清
- 日本特別の部屋土地帯
- 计河面出土の創建と特殊補籍
- の土田諸区の結構技物
- (日メクリ) 長浦
- (B) 第グラ地区の導水原設
- 書う子特区の様文板 white with と辞式事士器
- 産場花地道の医園湾と指治原連貨物
- 基準を地区の中毒状態製品
- ●原田地区の連維報
- ・カラノ出答論 田田立木図。
- 空用地区のベニバナ花粉

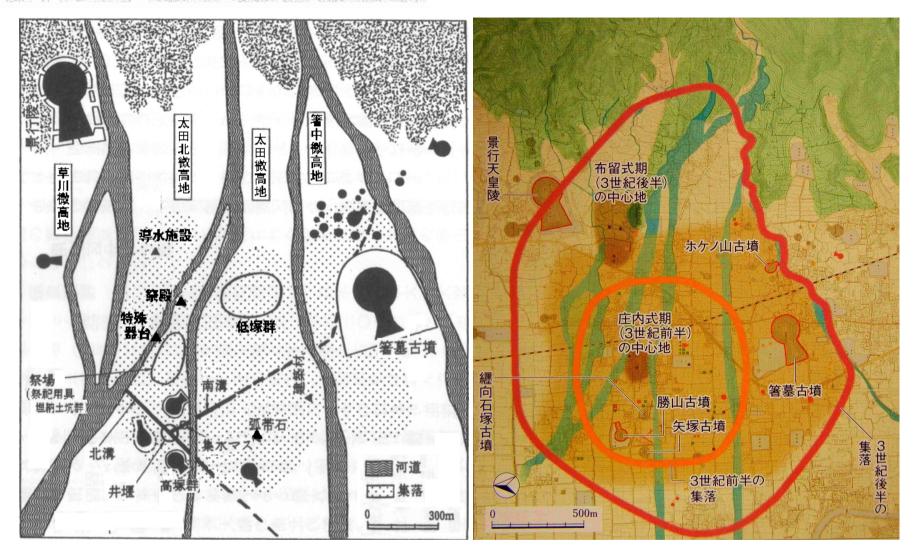
- まないおびずの水砂(を加)
- 前面去域路(水本)は10ml
- 指荷山古頭 Pag-Bintow
- 皇後古墳群 はまた
- 無用金母類 明明・6世紀6年
- 場目1号道 (Par-amicate)
- ❷ ヤナイタト号順 にゅうせんだ
- ヤナイタ2号値 (力の・ロセルモ)

- 高田は長増(カロールのかっちまには平)
- **伊州州**
- ◆ 其山東古朝 Chur-Elizara cuigni # 1
- 石垣草古田 mozewan・ナルジャ・コピルエン
- のレイン前古坊・四世・H世紀末里
- 四丁田古塔 (中海7)
- ●二角田古油 (内部一部)((水))
- 面 石名深古場 (m 578円金を81110m)
- 茶田山古浦 phu-isale--iak
- ② 岩谷古油(古城))
- ⑤ トの山古崎 Mカルド内は一旦月からのご
- 与力之联出籍(m 为包内唯一生品YEFOM)

- 力力表現ma-ange-
- 每 州北安古镇·州州·一部约35-11
- シウロウ豚虫類 (のカルのの・土まれての・・)
- 性腎周山岩塘 ※無理程序・全差析3000~
- ② タノニ 表情 (Fing)
- 立子古埔 川川川門町全直町2500

- ② 立石店排 M H APPIN MINGH)
- 定時花古場 (Ping-Kithane)
- ⑥ 技域出土最適。前方採用面・支票40m・到水料。
- 建流出2号道(m.fm#用M·全共mm/世界#
- 以到付出計畫(第28月間・全長47.5~)
- ③ 非自由的(内容等的5m)
- 等對內石國合道 前面無用第一个系統的一
- サシコマ本語 (四番・ほかつか)
- ® お知去婚 man http://www.
- **①** 小川原東古道 中華-必知時
- 中川原西古墳 古地一即64000
- 国 計田2券はかか順
- @ 石塚古塔(土地)
- **10** 中山北京北京 (WEIII)

- **の**単級大概では、世紀25mm
- 茶ノ木保古坊 (ma)・Etham
- (D) 3th 1-thill strait-White
- 型ノ経言語 (STEMPS)を新timit r)
- 岩ノ組古場 (四申・目の10+0)
- 使用弄集四輪 (Pig+04)(2m)
- 樂派寺鄉古墳 (Part)-22(1) Del.
- 60八十子至古坊(100)
- ゆップロ版を増(キャー() rpase)
- ツグロ版古頃 (中国-UFFriday)
- 様が喜古橋 回加り
- 北京古墳中田 中田一 ◎ 泰石神塚古博 四章-FE025ml
- 北石神経古墳 のほり
- @ 無家古珍 用编口
- 字形大数言者 河口中田之地 中田田田州 川田田田村
- 見沙門等古華 五方等円車・全員45m
- 三光古坊(と地口
- 弁天社古墳 09頃71
- 机振齿端 tra ··· Dirtioni
- 佐ノ経古墳 けは《田松中郎



3世紀前半の纏向遺跡集落の範囲 約1km四方 3世紀後半約2km 邪馬台国の王都というには 本当に狭い??? との疑問 また 箸墓の年代もまだ 定かでないでも 発掘調査はまだ10%にも満たない これから何が出土するか・・・・・



纏向遺跡は西暦 200 年頃に出現。その大きさは直系 1Km の円状の区域で、地図の赤枠で囲った文字「庄内式期の範囲」が示すオレンジ色で囲まれた範囲で、2009 年発掘された大型建物跡はこの区域の中心部「庄内式期の中枢地域?」と表示された部分にある。250~260 年頃になると、赤枠で囲った「布留式期の範囲」が示すオレンジ色の範囲(およそ 2.5Km×1.5Km の区域)まで拡大する。 この拡大期とほぼ同じ時期に今回発掘された大型建物などはこの場所からはなくなってしまう。 その移設先は「布留式期の中枢地域?」と表示された地域であろうと推定されている。

しかも、桜井市教育委員会 橋本輝彦氏によれば、「この時期は箸墓古墳が築かれた時期と合致する」とされていて非常に興味深い。 この「布留式期の中枢地域?」は縄文時代末期に大規模な土石流があったことが確認されており、荒地で弥生時代の遺跡はほとんど出土していない。この不毛の地に纏向遺跡が成立する 200 年頃は大和盆地最大の環濠集落である唐古・鏡遺跡が消滅する時期とも重なっていている。

仮に、この区域を「都」であったと仮定すると、後の飛鳥京よりも広く、藤原京(5.5km四方)に次ぐ大きさになります。 しかも、この地域は建物のあったあたりを尾根とする南北に緩やかな傾斜地であったものを平に造成したことも判明している。

權考研の寺沢董氏や桜井市教育委員会の橋本輝彦氏はこの纏向遺跡を「日本における都市の初現」だとという。

西に位置した東田地区からは土器や木器の入った40基近い土壌、掘立柱建物跡、溝などが見つかり、

飛鳥・奈良時代の河道からは銅鐸の飾耳片も出土した。東にある辻地区には幅5m、深さ1mの人工の

溝が2条あって途中で会流し、そこに井堰が設けられていた。

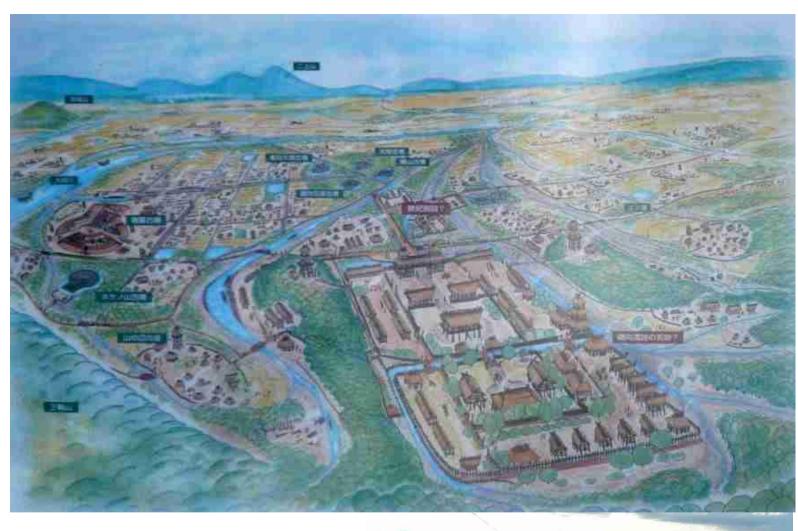
矢板を打ち込んで護岸した部分や、集水マスを作った所もあり、溝からは古墳時代初頭の土器が

多量に出土している。・・・

また、この遺跡のあちこちから、数多くの鉄器(主に鋤)や鉄滓・鞴羽口が出土し、この纏向の居館に付随する鍛冶工 房があったと考えられている。特に東田地区勝山古墳の西の周堤周辺からは北部九州のかまぼこ型羽口が出土し、畿内 でいち早く当時の先端技術であった北部九州の髙温鍛冶技術がこの纏向に持ち込まれていることや出土する鉄器のほ とんどが農耕具ではなく、土木工具の「鋤」であることはこの纏向遺跡の性格を考える重要なポイントであろう。

遺跡内には最古級の前方後円墳など 20 数基の古墳が点在しており、なかでも箸墓古墳は卑弥呼(あるいは台与)の墓とする説がある。 また、現状から前方後円墳と判別できるものとして、箸墓古墳、纒向石塚古墳・矢塚古墳・勝山古墳・東田大塚古墳・ホケノ山古墳があり、これらの古墳を総称して「纒向古墳群」といい、まだ築造時期が確定されたものはないが、近年の橿原考古学研究所や桜井市教育委員会等々の発表によれば、箸墓古墳よりも古いとされる勝山古墳、矢塚古墳、ホケノ山古墳、マバカ古墳などは出土物の調査等から建造時期が3世紀半ばまで遡るとされ、卑弥呼活躍の時期と一致するとの説もある。さらに、2009 年 11 月 巻向駅の北端の線路をはさんで北西側(纏向太田・辻地区)から3世紀前半の大型建物跡(柱穴)

や凸字形の柵が見つかり、過去に見つかった建物跡とあわせ、3棟が東西に整然と並ぶことも確認された。



日本に都市の発現 纏向 纏向遺跡イメージ図















纒向遺跡に

おの種の物質が

型建物跡





経験された調査地点 近げ内閣者。東西



2009年 3月20日、桜井市教育委員会は第162次調査と して纒向遺跡の中枢部の再調査を行い、3世紀前半の建物 跡を検出したとマスコミに発表した。

さらに前回の調査地の東に390平米の調査区を設定して9 月から第166次発掘調査を実施してきた。その結果、あらた に別の建物跡が見つかり、11月の10日その成果をマスコミ に公表した。

それによると、今回検出された建物跡は2棟ある。そのうち

の一棟は、前回の調査で3本の 柱列が見つかっていたもので、 建物の規模は3間x2間(南北 約8m、東西約3.5m)だった ことが判明した。外から梁(は り)を支える「棟持ち柱」を持ち、 宝庫のような施設だったとみら れている。



流元

阳朝

2009年(平成21年)3月21日

卑弥呼の宮殿



建物跡の科穴や無列遺構 が見つかった一奈良県泰 井市。矢木蓮時擬影

る78年の勝西で と指摘している。 の西端だった可能性がある」 の確認例はなく、 的に進られた同時期の建物跡 数表によると、これほど計画 及ぶ冊列の連携もあった。市 発表した。問題には約40万に とがわかった。 市教委が20日 「宮殿など極めて重要な場所 で、3世紀原子の一つの建物 に並んで建るれていた。 奈良·纒向! 學と構図書立学研究所によ が同じ方位を向き、 過數不備支 専門家は

跡、整然と

典、神殿状建物の酒約10㎡で

過去の調査を再検証した結

見つかっていた住代も、 細向遺跡で出土した 建物跡と柵列跡 今回の調査範囲 0.045-0-6-1978年の調査順四 天 東 丘 藤 今回の調査地 勝山古地 を重原 矢衛古墳 同道 古場 柵列型 傾向石炭 古墳

北京以上の建物だったら もいったに一つの株(直 の調査で、神殿状建物の集約 20 が出土。2月からの同市 方)と無列遺構の一部 た神殿状建物節(約5 結び)が望つかった。物 (競話) 出土した。 周囲からは柵列の延長 (粉話 報題

邪馬台国の有力候補地とさ

(2世紀末~4世紀初め)

と午後上 と推測する。 駐車場はない

国殿の一角なのかもしれな が邪ルコ国ニマれば卑弥呼の 階間と、第四学は「ここ 年後上時。 JR桜井線舎向 塩地説明会は20日午前10時 反庫県立著古博物館の石野

の同一機上に並んだいた。 建物跡(幅2計以上、興行書5 三つの建物は棚を挟んで東西 とみられることが判明

纒向遺跡のなぞに迫る

られたのではないか」とみる。
られたのではないか」とみる。
を関がある中枢域を水で囲た。宮殿がある中枢域を水で囲

れも同じ方位を向き、4棟とも中並ぶ小中規模の建物跡3棟がいず た。日田P住宅、大小の古墳が点方後円墳、審章古墳の北側に面が終った。「卑敬呼の書」のオイン製により 現地を訪れた研究者らが驚いた から流れる巻向川の扇状

線をそろえた例は見つかっていな たことだ。飛鳥時代になると南北 たことだ。飛鳥時代になると南北 を主軸とする中国風の宮殿が登退 するが、それ以前の建物は地形優 するが、それ以前の建物が地形優 計算したような建物配置

当時、電跡を発掘した奈良県立福 東西に走る河川からの潜水を窓敷 東西に走る河川からの潜水を窓敷

も浮上している。 遺跡は東西に走だったのではないか、とする見方だったのではないか、とする見方 呼の由来を「太陽(日)の必女」 助日は、季節によって三輪山か あれた あれた の ない の ない と行ったのかもしれない と行ったのかもしれない と行ったのかもしれない と行ったのかもしれない と行ったのかもしれない のあった一帯が巻向川からの水をたえた「鞭なる地」と指摘する。建物の中軸線を東に延長すると巻向山の方向に至り、巻向山から昇った大路が高い、巻向山からの水を

の約5%にすぎない。「大型建物の約5%にすぎない。「大型建物の東側に何かがあるはず。大いに期待したい」と研究者は口をそろえる。その時こそ、日光と水に彩 り入れた纒向が卑弥呼の宮殿に馴とする説もあり、太陽の動きを探 連する施設だった、 これまでの発掘面積は選聯全体

儀式専用?住居兼? 膨らむ想像

(大脇和明)

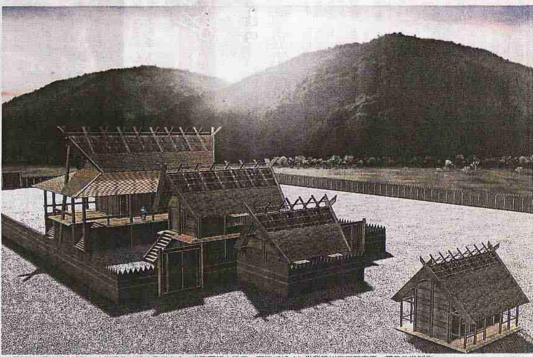
継向遺跡の大型建物の復元CG面像は、鳥取環境大 の浅川滋男教授 (東洋建築史) と研究室スタッフらが

ここが「富室」だとすれば、中央に「室」(居住空 **聞)にあたる部屋があり、それを取り囲む開放空間は** 儀式を行う「筥」だった可能性がある。あるいは、大 型建物そのものが儀式専用の施設で、居住場所は西側

一方、桜井市の依頼で復元を試みた黒田龍二・神戸 大准教授 (日本建築史) は、陳の高さ約10年の入り母 屈進りと推定。床の高さは地上から2たあり、東正面 の3カ所に階段を付けた。出雲大社本製などを参考に し、祭祀や居住を兼ねた建物だったとみている。

太陽と水 聖地が見える





朝続けに輝く纏向遺跡の大型建物4棟の復元CG=鳥取環境大建築・環境デザイン学科浅川茂男研究室、朝日放送制作

か――。「卑弥呼の唇鎧」を再現したCC画像を交え、古代呂都のなぞにを補鑑する義拙成果として、脚光を集める「暴向」とは、どんな遺跡なの(2世紀末~4世紀初め)で、大型建物節が見つかった。邪馬台国製内説女王・卓弥呼が治めた邪馬台国の有力候補地、奈良県桜井市の纒向遺跡

独自に復元設計した。

柱穴の形状などから、儀式や祭祀を行う高床式の居 館で、棟の高さが約12年ある超大型建物と推定。今城 塚古墳 (大阪府高槻市、5世紀) から出土した家形埔 輪(はにわ)の入り母屋造りなどをモデルに、魚顔蛇 の大屋根と緩い傾斜のひさし屋根を取り付け、中央に 柱があることから、建物の4隅に階段を設けた。

の建物だった、との見方もできるという。

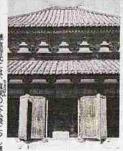
②禅宗様 193027年ごろに建てたとみられる家 193027年ごろに建てたとみられる家 2000年でありながらる 193027年でありながらる 19302年でありながらる 19302年でありながらる 20世元に、そろばんの正のような動りで使足元に、そろばんの正のような動りで使足元に、そろばんの正のような動りで使起しがはさまっている。

国宝を訪れる人は表ばらだが、その静け 独特の様式。ミカン畑に囲まれた山里の瓦をタイルのように敷いた床も禅宗禄

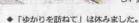
、禅宗禄の寺も各地に広がった。その禅宗は室町幕府から後押しを受けたの

口県)と並んで、和歌山県極南市の善福等舎利駁(神奈川県)や功山寺仏殿(山鉄倉時代の禅宗様建築としては、円覚

せるだけだったので、機奈様の建物は軒の日本の寺院では、組み物は柱の上に載の日本の寺院では、組み物は柱の上に載屋根の重みを受ける「組み物」が、軒屋根の重みを受ける「組み物」が、軒



揮宗様の建物



◎横から見た大型建物(幾川研究

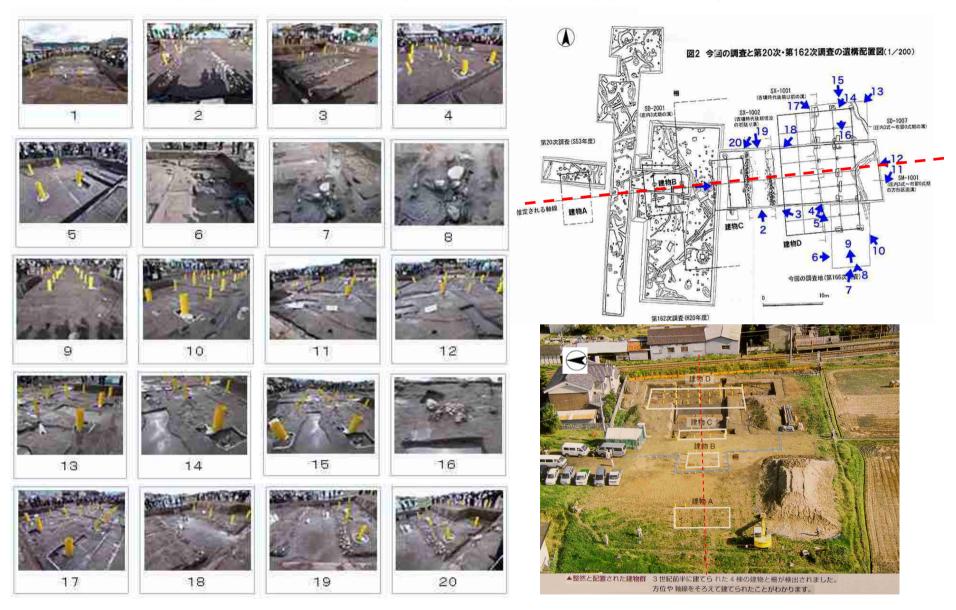
の黒田龍二・神戸大准教授が製作

した大型建物の復元模型



▲整然と配置された建物群 3世紀前半に建てられた4棟の建物と柵が検出されました。 方位や軸線をそろえて建てられたことがわかります。

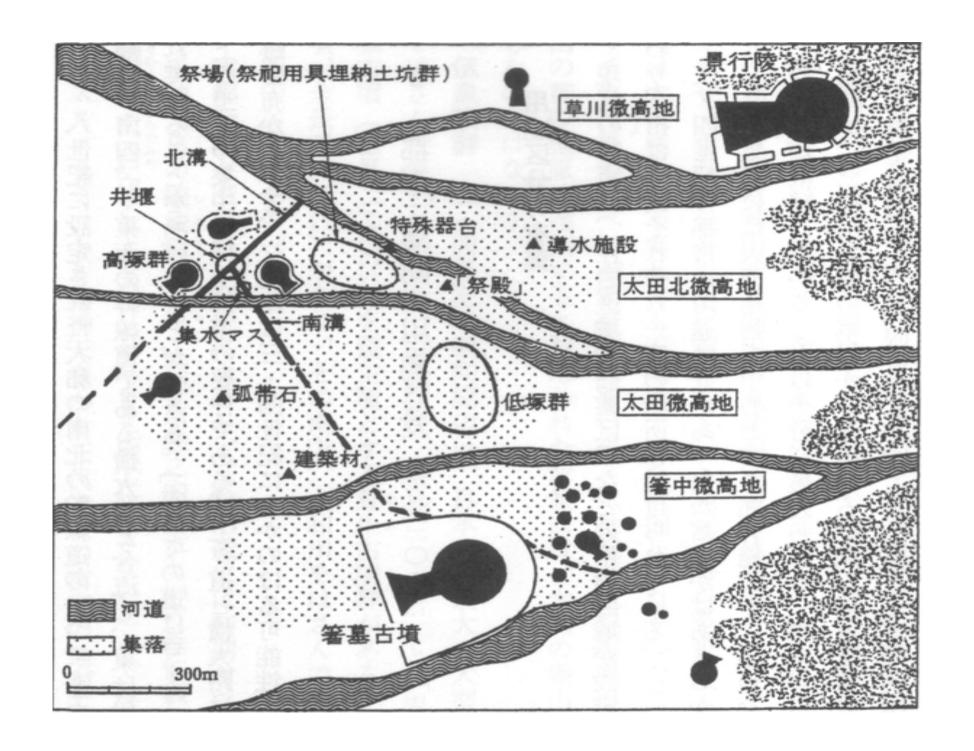
宮殿跡が出土した?? 纏向遺跡第166次調査現地写真

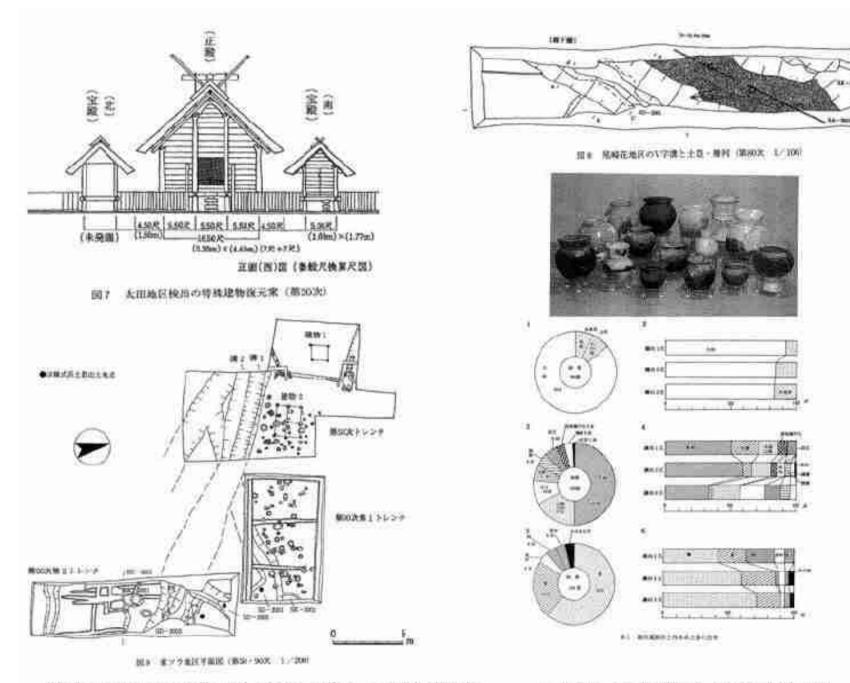


纏向遺跡第166次調査 現場写真(2009/11/14,15) <a href="http://www.gensetsu.com/091114makimuku/photo1.htm" より 整理 纏向遺跡第166次調査 現地説明会資料(桜井市 2009/11/14,15) http://www.city.sakurai.nara.jp/4211114.pdf









纏向遺跡の諸遺構・遺物が示す都市機能

大型建物·平屋建住居 柵·溝·搬入土器

日本における都市の初現 纏向遺跡 日本各地から持ち込まれた多数の外来土器



_鍛冶関連遺物 (桜井市大字巻野内•東田)

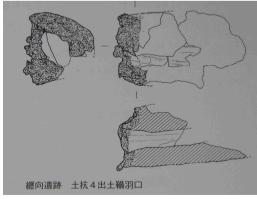
近畿でいち早い北九州型の高温鍛冶 かまぼこ型羽口・高温鉄滓・土木具に特化した鉄器出土

近年の調査では鉄製品の加工も纒向遺跡の中で行なわれていたことが判明して 遺物量は少ないが鞴羽口や鉄滓・鍛造剥片・砥石などが出土している。これらの 所属時期は布留O式期(3世紀後半)~布留1式期(4世紀前半)で、特に早い布留 O式期のものは近畿でも段階の鍛冶関連資料であり、纒向遺跡の先進性が窺える。









遺	跡 名	(時代)	鋤	鍬
大和・唐古	· 鍵遺跡	(弥生・前)	30%	70%
和泉・池	上遺跡	(弥生・前)	40	60
伊勢·納	所遺跡	(弥生・前)	27	73
近江・大中の	の湖南遺跡	(弥生・中)	12	88
和泉·池	上遺跡	(弥生・中)	35	65
大和・唐古	・鍵遺跡	(弥生・後)	50	50
静岡・登	呂遺跡	(弥生・後)	25	75
福岡・辻	田遺跡	(弥生・後~ 古墳・前)	5	95
播磨 · 長	越遺跡	(古墳・前)	30 (60)	70 (40)
大和・總	向遺跡	(古墳・前)	95	5
福岡・湯	納遺跡	(古墳・前)	33 (38)	67 (62)
近江・滋	賀里遺跡	(古墳·前~後)	50	50
チ 葉 ・ 菅	生遺跡	(古墳・後)	27 (39)	73 (61)

(註) 註26の資料を参考として出土総数10点以上の遺跡に限る。 ()はナスビ状農具を鋤とした比率を示す。

表2 遺跡出土の鋤と鍬の比率



	遺	跡	名	(時代)	鋤	鍬
大和	・唐古	・鍵遺	跡	(弥生・前)	30%	70%
和泉	· 池	上 遺	跡	(弥生・前)	40	60
伊勢	• 納	所 遺	跡	(弥生・前)	27	73
近江·	大中の	湖南遺	跡	(弥生・中)	12	88
和泉	· 池	上遺	跡	(弥生・中)	35	65
大和	・唐古	・鍵遺	跡	(弥生・後)	50	50
静岡	・ 登	呂 遺	跡	(弥生・後)	25	75
福岡	· 辻	田遺	跡	(弥生・後~ 古墳・前)	5	95
播磨	· 長	越遺	跡	(古墳・前)	30 (60)	70 (40)
\mathcal{M}	. (a)	n H	跡		95	5
福岡	・ 湯	納遺	跡	(古墳・前)	33 (38)	67 (62)
近江	・滋賀	買里遺	跡	(古墳·前~後)	50	50
千 葉	・菅	生 遺	跡	(古墳・後)	27 (39)	73 (61)



(註) 註26の資料を参考として出土総数10点以上の遺跡に限る。 ()はナスビ状農具を鋤とした比率を示す。

表2 遺跡出土の鋤と鍬の比率





纏向遺跡の鉄

農耕具が出土せず、ほとんど土木具

日本における都市の初現-纏向遺跡

運河とおぼしき大溝

昭和46年に、幅5m、深さ1m、長さは南北200mにわたった運河とおぼしき大溝が発見された。 溝には 板を敷き、護岸工事をする高度な技術も施されている。発掘された溝は一部であるが、溝を延 長していくと 一方は初瀬 川に、もう一方は箸墓に伸びていると言う。

幅5m、総延長2600mの大溝が遺跡内を人字 形に通じていて、ヒノキの矢板列で丁寧な護岸工事がなされ、集水施設もつくられていた。

大溝や導水施設 といったインフラを備え、整然と区画された都市らしい機能をもった遺跡が、突如出現する のはこの遺跡における謎。





尾崎花地区の区画溝 (桜井市大字巻野内)

第80次調査では布留O式期から布留2式期式初め(3世紀後半~4世紀前半)にかけての区画溝とこれに伴う柱列が検出されている。 区画溝は段丘の端面に掘削されたもので、幅・深さともに約2mの規模を有する。

溝の外側には土塁があり、約1.6mの間隔で柱が立てられていた。 これらの施設は纒向遺跡内でも特殊な役割を持った施設(居館・倉庫群など)を一般地域から遮蔽するための施設と考えられている。

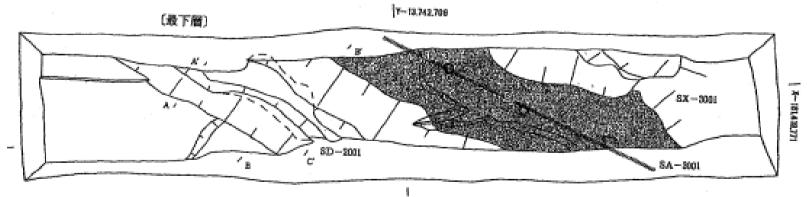


図8 尾崎花地区のV字溝と土塁・柵列 (第80次 1/100)

家ツラ地区の導水施設 (桜井市大字巻野内)

導水施設は中央に幅63cm、長さ190cmの大きな木製の槽を据え、北・南・東の三方から木 樋を通して水を注ぎ、槽に集めた水は西側へとオーバーフローさせて、木樋から素掘り溝へと排水する機能を持っている。

調査は施設の一部で、全容は明らかではないが、浄水を集めた祭祀の場と考えられている。 遺構は布留1式期(4世紀初め)には廃絶しており、その設置は布留O式期新相(3世紀後 半)ごろに遡る可能性が高いと考えられています。



古墳時代の幕開け 纏向古墳群

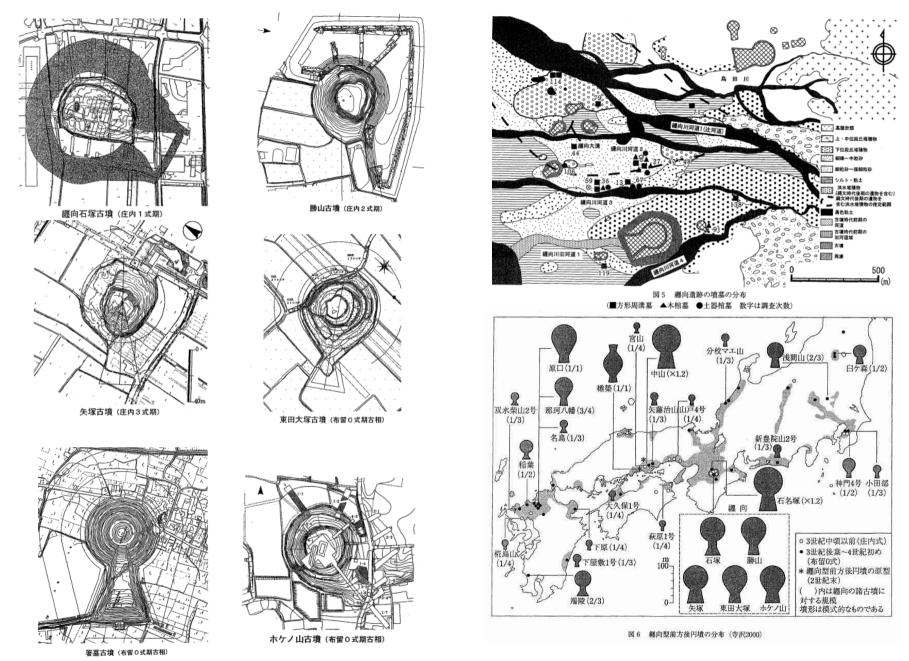
石塚古墳 勝山古墳 矢塚古墳 東田大塚古墳

 ○ 石塚古墳の規模をみると全長96m、後円部径64m、くびれ部幅15~16m、前方部長さ32m 勝山古墳 全長115m、前方部48mの非纒向型 矢塚古墳 全長約96m、後円部径約64m、後円部高さ5m の纏向型 東田大塚古墳は(全長120m、前方部50m)で前方部が長く非纒向型。

矢塚古墳 (庄内3式期)

纏向型古墳 後円部と前方部の長さの比=2:1 前方部に比べ後円部が大きくて高く 前方後円墳のさきがけ(出現期の古墳)

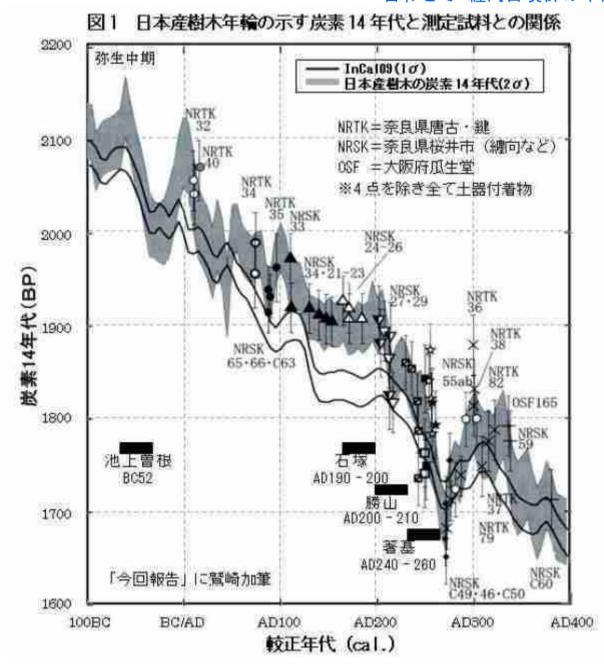
纏向型とおもわれていた勝山古墳の形状が非纏向 同じ纏向古墳群に属する東田大塚古墳も非纏向



纏向古墳群 出現期の古墳の形状

卑弥呼の墓と騒がれた「箸墓」の年代が確定できない

合わせて 纏向古墳群の年代整合も



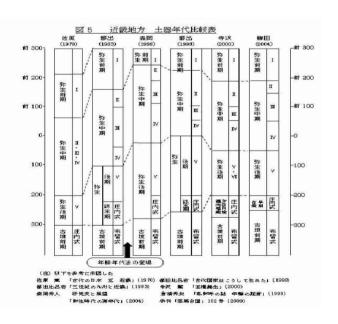
箸墓古墳や纏向古墳群の年代計測については、今もまだ 確定していない。

同じ年輪年代・加速器計測法によっても資料のサンプリングや研究者の視点による差など、暦博が出した箸墓古墳の年代が3世紀半ばまで 遡れるとする説に大きな論争が生じている。

箸墓より先に出現したとされる纏向古墳群 の年代もその解釈が分かれることになる。

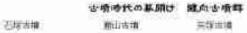
周辺の事象との整合はまだまだ これから で:現状 纏向を卑弥呼の邪馬台国とする 証拠は何もない。

でも「日本で初の人工都市の初現 纏向」の 価値は代わらない





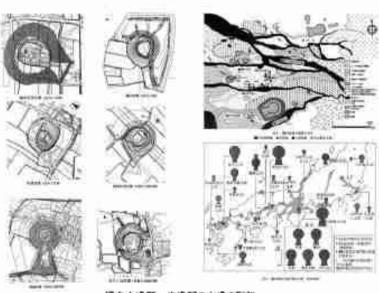
単出大なら境





() 石坊古場の提供するだった実施の、東戸部市がはいくびれ部構造を30m。 配片部成された 協力古場、主義であり、利力等の4mの分析構造型 大幅古場、主義が30m、東戸部門が30m (統計部業計分・の構造型 実施大場古権 7分支にから、東戸部市の大幅で現れることはませる。

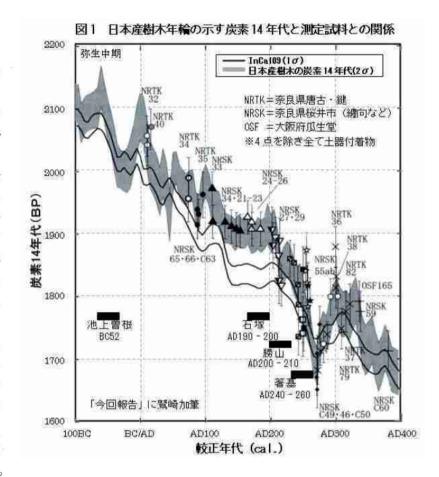
通用型点域 (銀円銀を前の部の長さの数~25) 能力部に比べ銀円銀が大きくに高く (組入銀門機の込きがすぐ前段場の 古地) 通り望むかもりたい (2時に古場の形形が声極い 列入機の古場所に属する表面と様古場を呼吸の



線向支援群 出規制の支援の形状

纏向の居館に付随する鍛冶工房・ベニハナ工房

さて、12番目には先ほどのベニバナの染色もそうですけれども、先進的な技術を持った 工房の存在があります。これには鍛冶などの鉄製品の生産に関わるような工房ですとか、 木製品の加工場、それも特殊な用途に限定した木製品を製作する工房などが確認されてい ます。これらの工房に共通しているのは何れもが居館域に隣接あるいは含まれる形で築か れるという特徴がありまして、鍛冶と木製品の工房は纒向遺跡の範囲図でいきますと図2 に示した布留式段階の居館域に隣接して見つかっております。ただし、鍛冶関連遺物の量 からは大規模に鍛冶をやって纒向遺跡全体に鉄製品を供給するというような量の鍛冶を行っ ていたとは考えられませんのでおそらくは居館域に隣接して工房があって、居館域の中で の利用に供するためだけに生産を行っていたのではないか考えております。これに対して その他の鍛冶工房というのは工房そのものはまだ見つかってないんですが、鍛冶関連資料 の出土地点でいきますと纒向遺跡からは4か所位から点在して布留0式と言われる段階の 資料の出土があります。傾向的には遺跡の中の幾つかの微高地の中に小さな工房が点在し ていたのではないかと思っていまして、あちらこちらにパラパラと小規模な工房が存在し、 集落部に供給するものはこういった場所において生産を行っていたのかなと考えています。 木製品の加工場跡というのも布留式段階の居館域から発見された鍛冶工房のすぐ近くから 発見されています。通常、纒向遺跡の調査をやっておりますと、特に一般的な集落部分で は土木用具などの出土が多いと申しましたけどもそれに従って通常はアカガシ亜属などの 樫材、広葉樹を多用した木製品の加工場というのが一般的な集落部分でのあり方だと思う のですが、この居館域に隣接したところでの工房、木製品の加工場というのは基本的には 針葉樹を用いたものしか生産をしないという変わった内容であることが判明しております。 遺物の内容も木製の形代、刀型をするようなものであったり、漆塗りの盾、あるいは案な どのテーブル、木製の坏、何らかの祭祀用具と思われるような奇妙な形をした木製品です とか、調度品の一部ではないかと思われるような部材の破片があったりということで、居 館域に推定されるエリアの中の木製品加工場というのもおそらくは首長層のみに供給する 木製品を作るという工房を付帯させていると考えても良いのかなというふうに思っていま す。庄内式の段階で見ますとまだまだ内容は判然としませんが、先程申しましたベニバナ の廃液の存在からは初期段階の纒向の中枢域にもベニバナを用いた工房が付帯している可 能性が高いということで、居館とそういう工房というものがセットで存在する可能性もあ るということが最近の調査で分かってきております。





三韓系・三国系土器の器種は、壺・甑・鉢・高 坏・炉形などであり、楽浪系土器とは構成・形態及 びその胎土が大きく異なる。製作技術では、三韓 系・三国系土器には、静止糸切りは認められず、格 子タタキや鳥足文タタキなどの固有のものがある。 また、三国系土器には、青灰色を呈する硬質(陶 質)土器が加わる。器種構成や形態、製作技術に朝 鮮半島の各地の地域色が認められ、甑や壺などの形 態、タタキなどの製作技術の差異は著しい。







三韓系瓦質土器片

纏向遺跡で出土した三韓土器片

鉄遺物の出土地と重なることから、渡来人が数多くやってくる前の時代に いち早く渡来技術者がこの纏向にも来ていたと考えられる

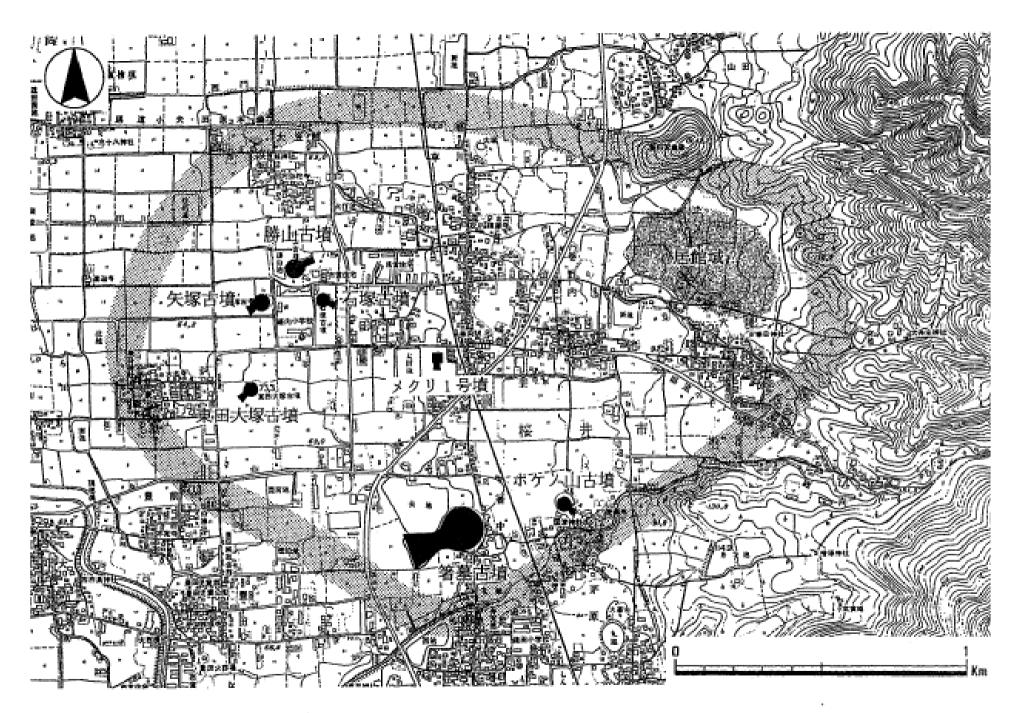


図2 布留式期(3世紀中頃~4世紀初頭)の中心地と遺構の広がり

纏向遺跡の謎

纏向からは集落から都市へ脱皮を示す遺構・遺物が出土しているがここに集まってきた人々の顔・暮らしが見えない。 未だに住居集落が見つかっていない



ホケノ山から眺めた奈良盆地を見晴るかす纏向 左端に箸墓 右側雨雲の下が生駒山



穴師 珠城山古墳群の丘から眺めた纏向南側の景色 右に三輪山 左奥に箸墓が見えている



纏向東田地区 纏向古墳群を眺める 田園の市ご 写真左端 肾山古城 徳市小学校 失塚古墳 古儒 東田大塚古墳

2 [日本出版]

邪馬台国の主都?? と随かれた大型特殊建物群跡と護向古墳群を見て歩く 2012724. 料井線の表験3世紀前半の傾向中枢地区大田地区と傾向古墳群のある東田地区

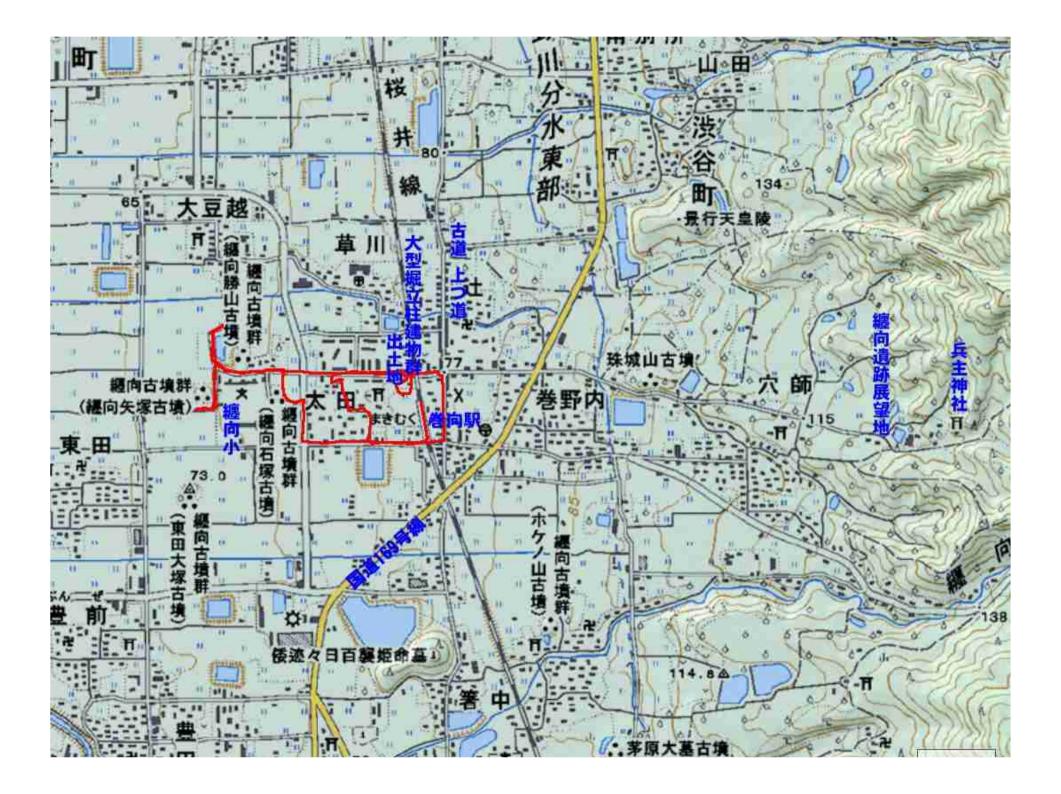


善向は何度も多いたことがあるのですが、今日は特に桜井縄の西側地区 卑弥呼の宮殿跡と騒がれた大型語立柱建物出土地や 着墓の装造以前に禁煙されたといわれ、古墳時代の幕を開いた趣向古墳群 中でも精刊口など3世紀指半の鉄造物が南垣南辺 から出土した側山古墳南辺を歩こうと 7月24日のカンカン照りの午後 春向駅に跨り立つ。 どちらも遠くから眺めたことはあるのですが、歩いたことなし。

専弥呼の言履跡と騒がれた大型構立柱建物出土地は推済の駅のすぐそばと聞くのですが、行ったことなし。

駅の無人改札をでて 宮殿跡が出土した場所へ行くのはこの道からですか????と高校生に聞いて、怪訝な顔をされて・・・。 それもそのはず、この宮殿跡が一難良く見える場所が墨向駅のホームの北堤。 出だしから失敗です。

また、場所は覚えているのですが、出土地に行く遂がわからず、結局ぐるっと一層。











桜井線 卷向駅 2012.7.24.

卑弥呼の里、国の始まりの地 桜井 Sakurai



ようこそ纒向遺跡



纒向遺跡

Makimuku site

桜井市北部に位置する纒向遺跡は、東西 約2km、南北約1.5kmの範囲にひろがる古 墳時代前期の大規模集落遺跡として知ら れています。古墳出現期の大型前方後円 墳が複数存在し、関東から九州にかけて の広範な地域との交流を示す搬入土器が 多く出土していることなどから、3世紀 代の日本列島における中心的な集落が存 在したと考えられています。またこうし た遺跡の性格から、邪馬台国の有力な候 補地ともなっています。





(像元回 黒田龍二監修 ONHK/タニスタ)

辻地区の建物群

Buildings of Tsuji area

で実施された第162次・166次調査 において、方位をそろえて建てられ た3世紀前半頃の4棟の掘立柱建物 跡が見つかりました。右の写真はそ の位置に柱を復元して立てた様子で、 柱穴の状況などから、上のような建 物の姿が推定復元されています。





辻地区の建物群

Buildings of Tsuji area

JR巻向駅北西側の纒向遺跡中心部で実施された第162次・166次調査において、方位をそろえて建てられた3世紀前半頃の4棟の掘立柱建物跡が見つかりました。右の写真はその位置に柱を復元して立てた様子で、柱穴の状況などから、上のような建物の姿が推定復元されています。



←桜井線線路

この写真の奥が東で 巻向・三輪の山並 中央左右に桜井線が走っている













線路の西側は広々とした田園が広がり、巻向の山並を背に集落が線路際に広がっている



166次調査地「辻地区」巻向駅のホーム北端が見える



巻向駅の南側 右側の山が三輪山

駅横の踏切を西に渡って 田園の中を北に回り込んで 纏向遺跡166次調査地「辻地区」へ







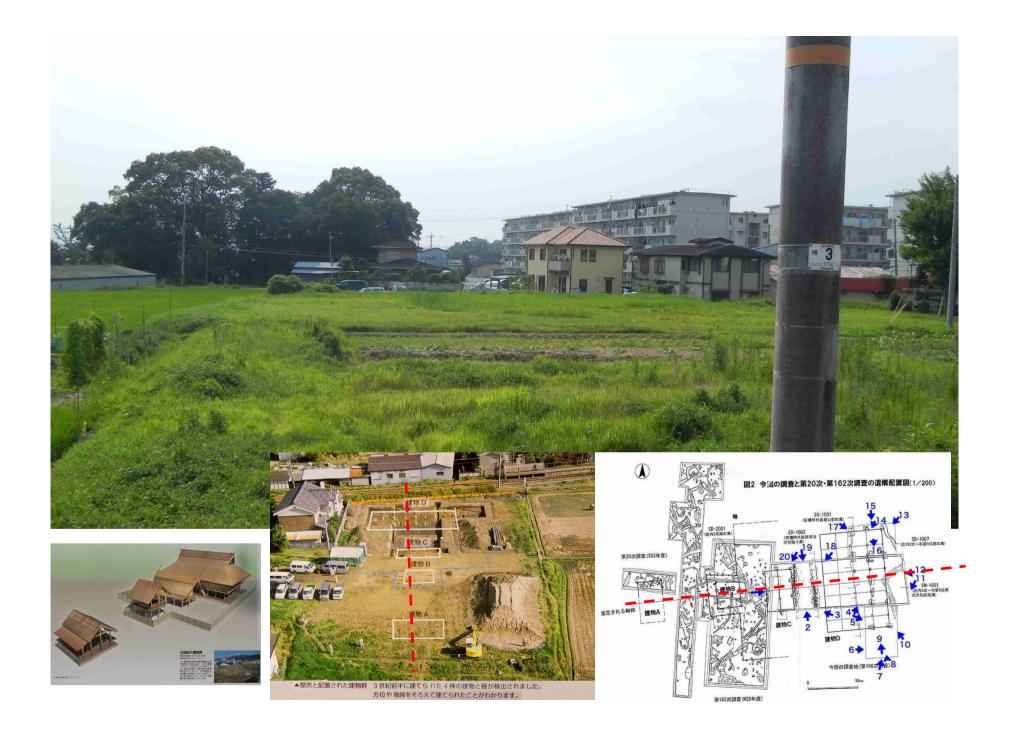






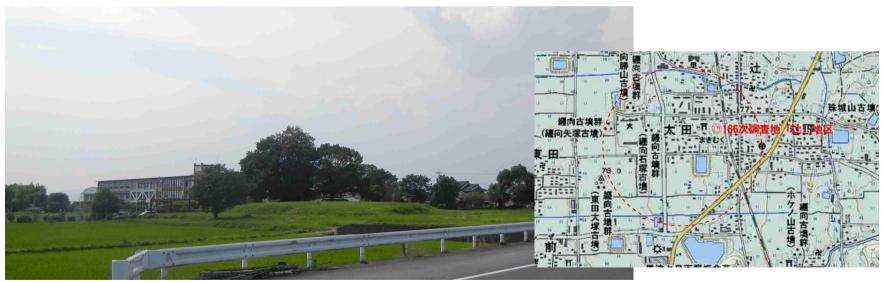


纏向遺跡第166調査地「辻地区」 邪馬台国の中心部と報道され宮殿跡????



3世紀前半の纏向の中心部から西端 纏向古墳群 石塚古墳へ





纏向古墳群 石塚古墳 巻向駅の西北側 約600m 国道166号線脇

すぐ後ろに纏向小学校が見える。この周辺にほかに 纏向古墳群の2つの古墳があり、3世紀前半 初期纏向の西の外れである









纏向古墳群 石塚古墳から眺める巻向 中央正面の家並の後ろが巻向駅のあたり



国道166号線 纏向古墳群 石塚古墳の北角 この位置が一番古墳の形が見える この十字路西に入ると纏向小学校 そのそばに勝山・矢塚2つの古墳がある





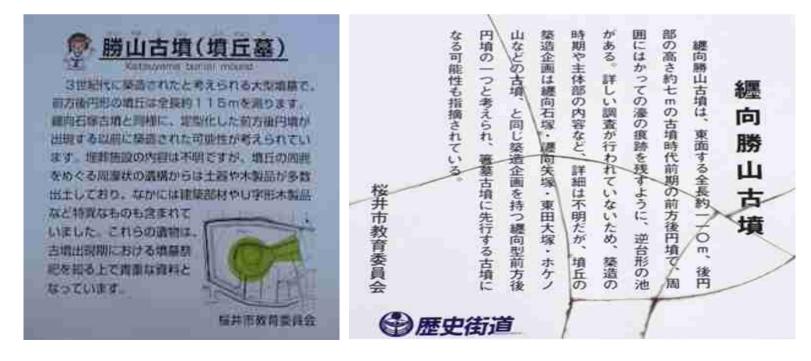


纏向古墳群 勝山古墳

纏向小学校横の坂道の向こう 道の反対側に丸い藪 これが勝山古墳だった



纏向 勝山古墳 箸墓古墳よりも古いといわれ 周囲には築造時の濠の痕跡を残す「勝山池」が存在











西側に広がる田園地帯(南西部)

勝山古墳の西には金剛・葛城から生駒の連山を背後に広い田園地帯















巻向駅の画側は着基間辺には行ったことがありましたが、よく知らず、今回始めてみた適向古墳群 こんなに近くに しかも 平面の田園の中にほこぼこ古墳が浮かんでいるのにはビックリ。 私のイメージとはちょっと違った染金場所 でもここが適向のはずれとするとそれもうなづける。 それにしても 鉄が出土したといっても 本当になにもないなあ・・・・・と

いまで、健司遺跡を卑弥呼の邪馬台国 そして 大和王権につながってゆく大和の接別地と連然としたイメージで捉えていました。 今回後本郷彦氏の「日本における都市の発現」の視点や纏向遺跡の異体的な都市機能遺構などにられ、いまさらなが

ら 護向の不思議 頭白さに触れることが出来ました。

様に包まれた細南の鉄ですが、何か大きな役割を演じたに違いない。

発想を変えると このあたりは初期川 (大和川) から護向へ入る入口 3 世紀の音に大規模な大清が振られるなど土地改良が行われている。 適向では今までの大和にはない他の遺跡とは異なる傷った特徴ある 遺物・遺機が出土するのも、この土木工事の大きさに起因し、それが ここで営まれた人工都市護向につながっているのだろうか・・・・・。 それにしても 人の営み・姿が発えない傾向 不思議である。

ついでながら 私の間に強く印象付けられていた趣向の景観図 まだ 真偽はまだこれから・・・でも こんな素晴らしい都市 景観が古墳時代前期にあったとしたら すごい。

久し握りに 古代製鉄関連地名であり、殿右集団が奉るといわれる兵 主神社がある穴類へも足を伸ばしたかったのですが、今日は 巻向へ やってきたのが、遅かったのでもう東の穴節の方へゆく 時間がない。

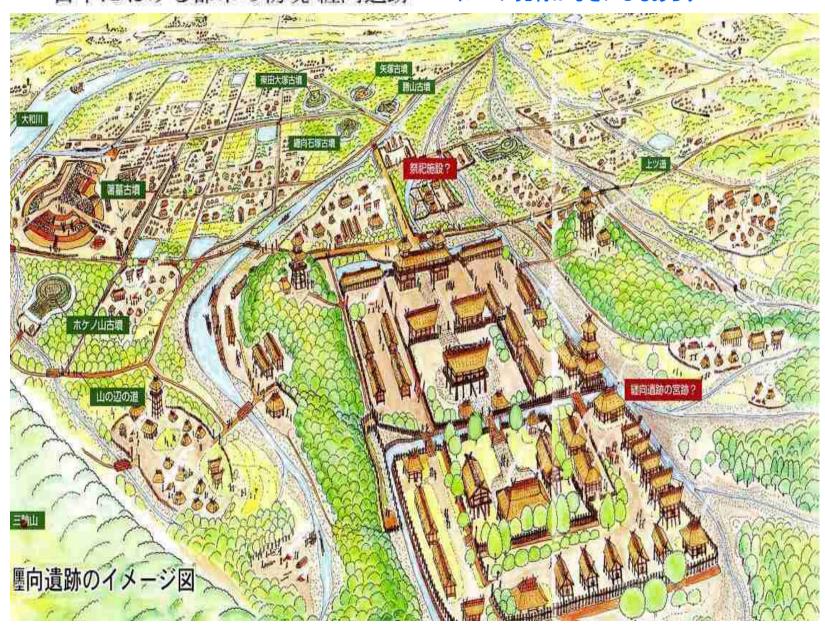
ぶらぶら 古境の南辺を歩きつつ この大和で初の先端酸冶技術を 持った種向の不思議に色々思いをめぐらしながら暑向駅へ戻りました。



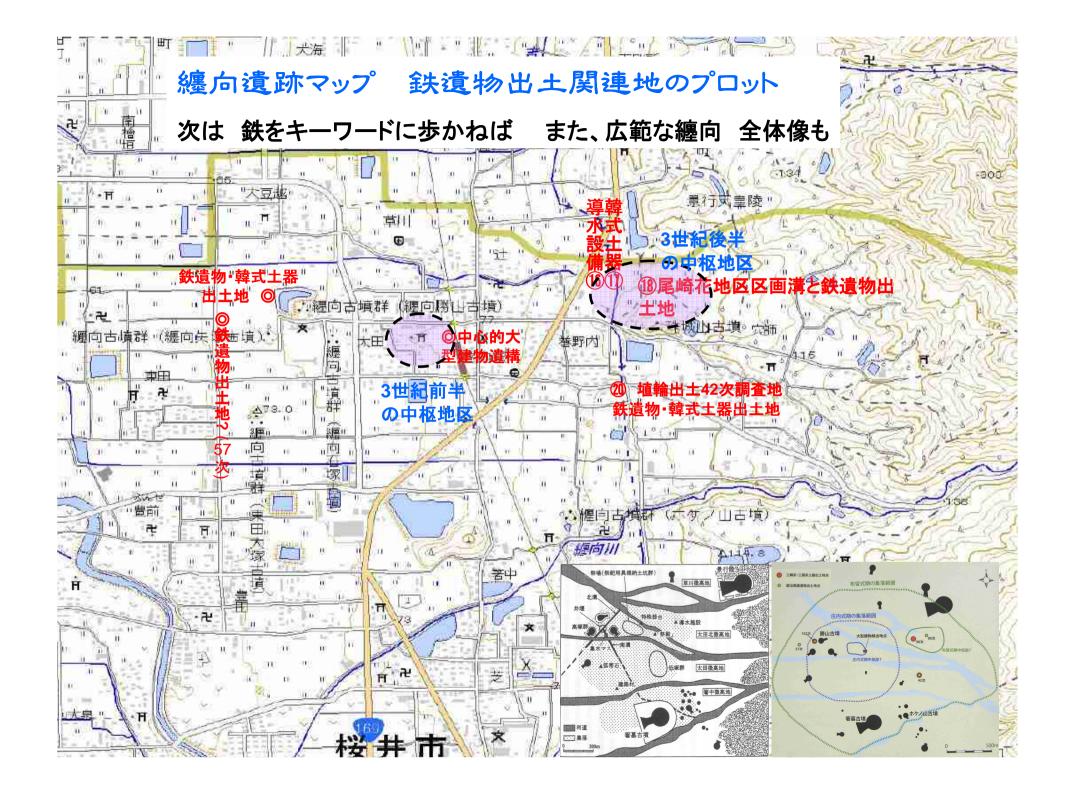


2012. 7. 24. by Mutuu Nakanishii

日本における都市の初現-纏向遺跡 イメージ先行がなきにしもあらず







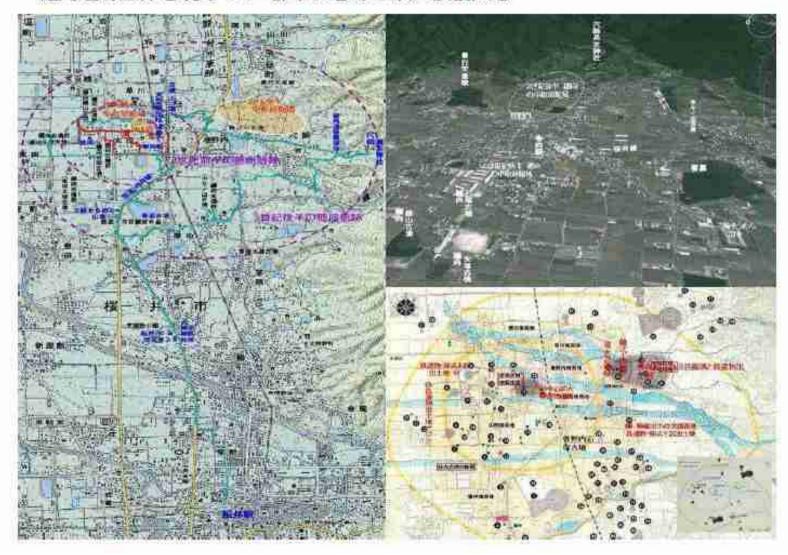




3. 【現地写真資料】

鉄をキーワードに纏向遺跡の謎を探る 纏向再訪 walk 纏向遺跡全体を眺め 人工都市の意味と鉄の役割実感

2012,823,



日本の都市の初現「纏向」をイメージしながら再度纏向を歩きました。

大和王権の誕生 そして 古墳時代の出現をもたらした「纏向」 そのキーワードのひとつは「鉄」 畿内でいち早く 北部九州の先進鉄技術が入った「纏向」ですが、鉄の役割も その出土遺物からはもうひとつよく見えない。また、大規模な大溝 そして 巨大な前方後円墳を築造した纏向 鉄なくしてはかんがえられぬ人工都市の出現

前回 歩いた7月24日には 纏向の全体像をゆっくり眺められなかったので、今回は纏向 全体をぐるっと歩く。

また、桜井市の埋文センターの纏向遺跡の展示の語る纏向も知りたい。 そんな 纏向の謎と鉄を頭に ゆっくり 一日 再度 纏向を歩きました かんかん照りの夏の日に 雷鳴轟く激しい夕立のおまけも付けて

でも 纏向に人の影が見えない これは何を語っているのでしょうか???

本資料は 8月23日 桜井駅を起点に 国道 169 号線 三輪の大鳥居前にある桜井市の埋蔵文化センターに立 ち寄り、纏向の展示を見学。

色々纏向について教えてもらったあと、国道 169 号線 沿いを箸墓にでて、そこからぐるりと纏向遺跡の中を ぶらぶら 纏向の今をデジカメに納めて歩きました。

ちょっと話題先行気味の纏向遺跡まだ発掘調査は10% にも満たない。何が出てくるか、まだこれからで、い ろんなイメージをふくらませるのは、専門家も素人も みなおなじ。 この謎に包まれた都市に、私も「纏向 の鉄」を絡ませながら、古代のロマンをふくらませて います。

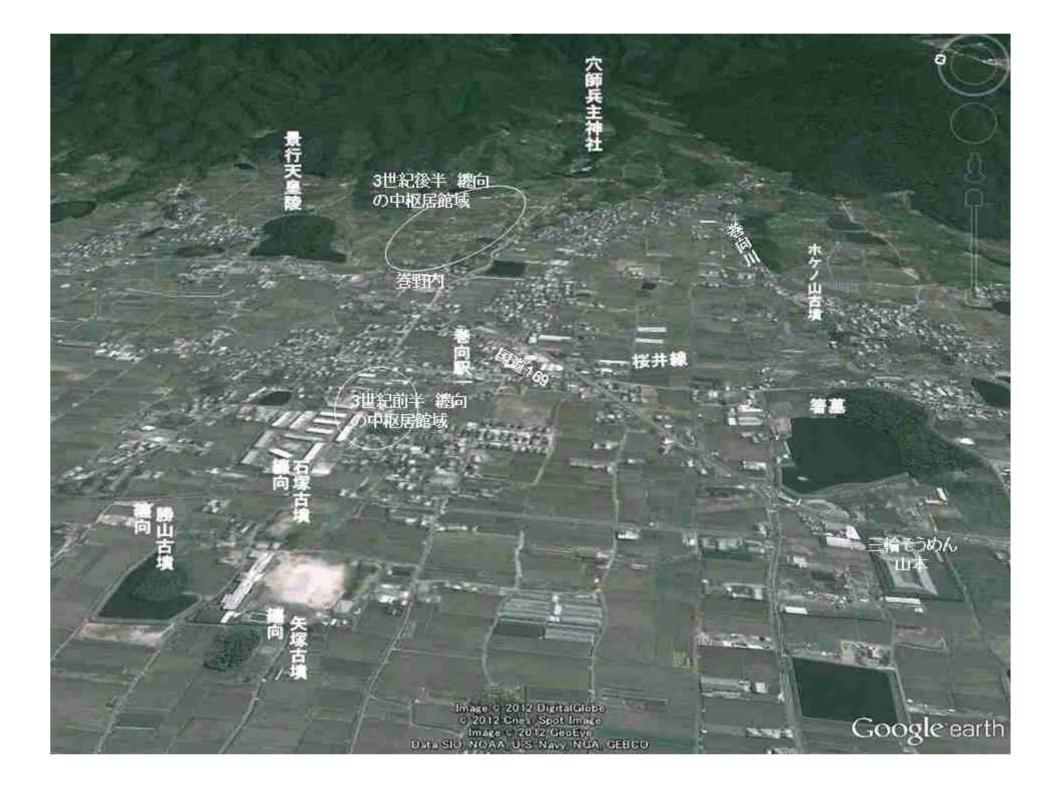
そんな纏向遺跡の今を歩いた写真を整理しました。

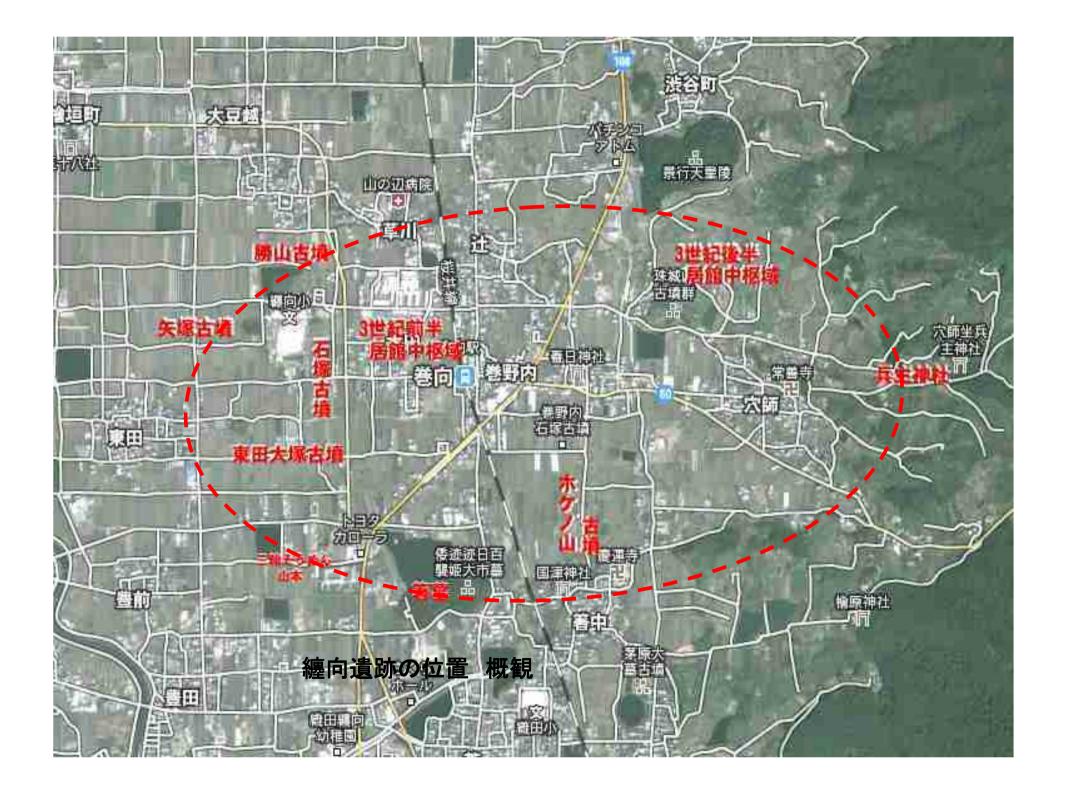


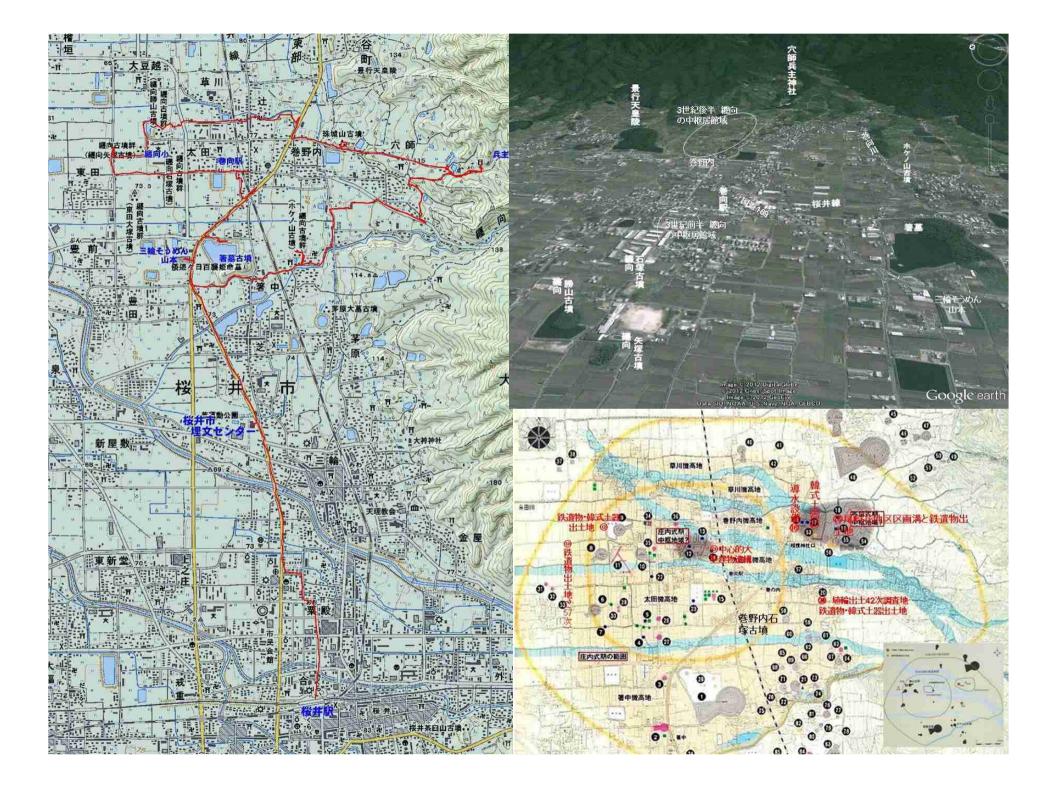


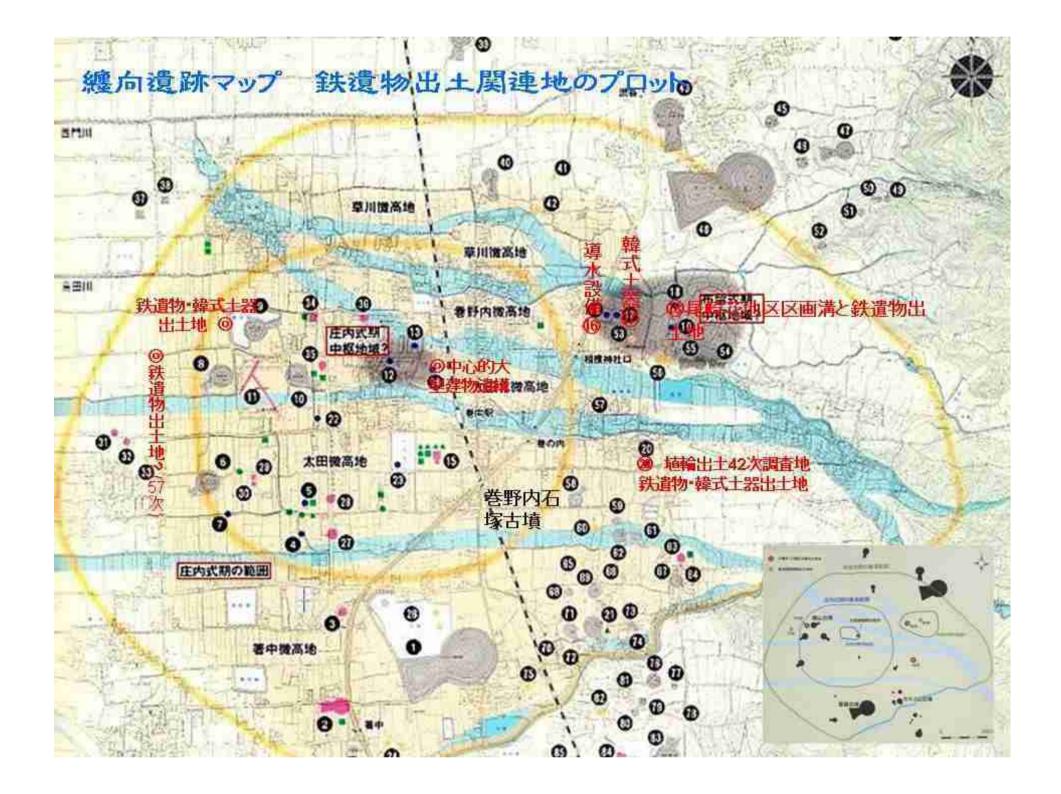








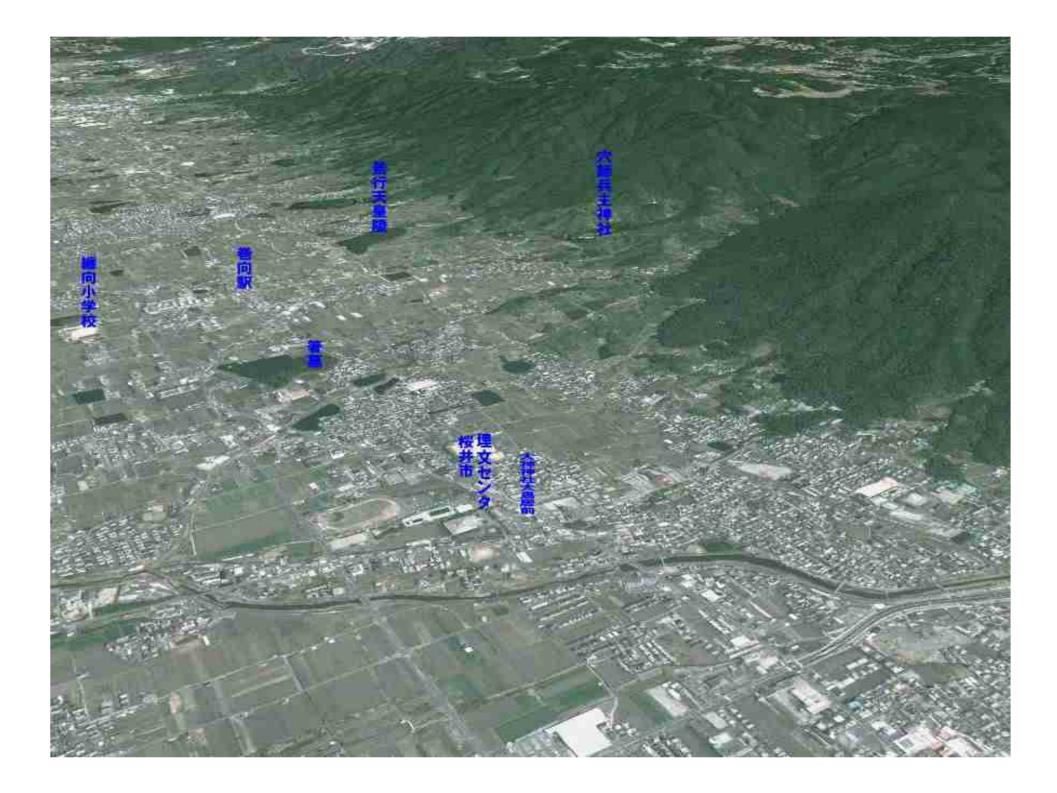








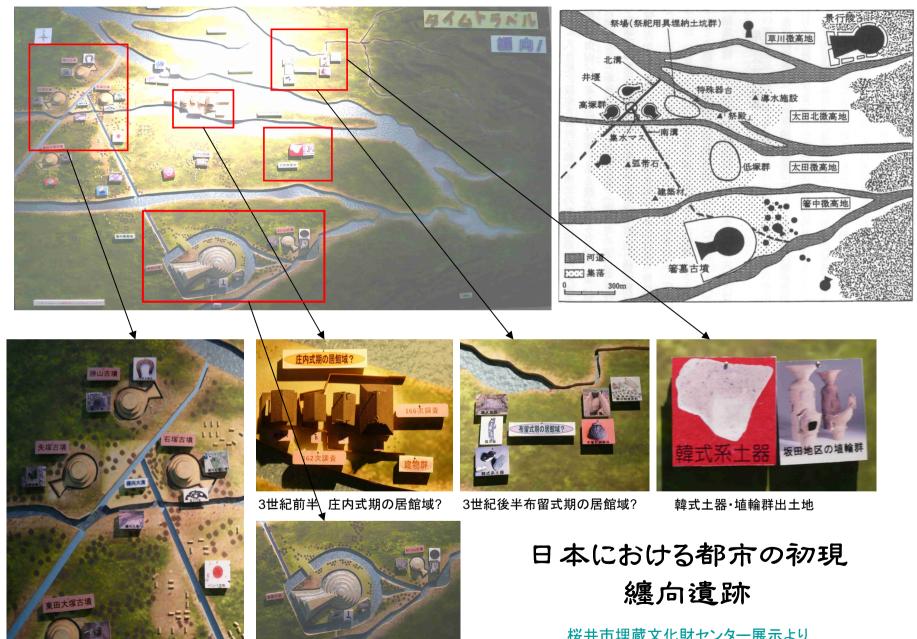






桜井市埋蔵文化財センター 纏向遺跡の展示より

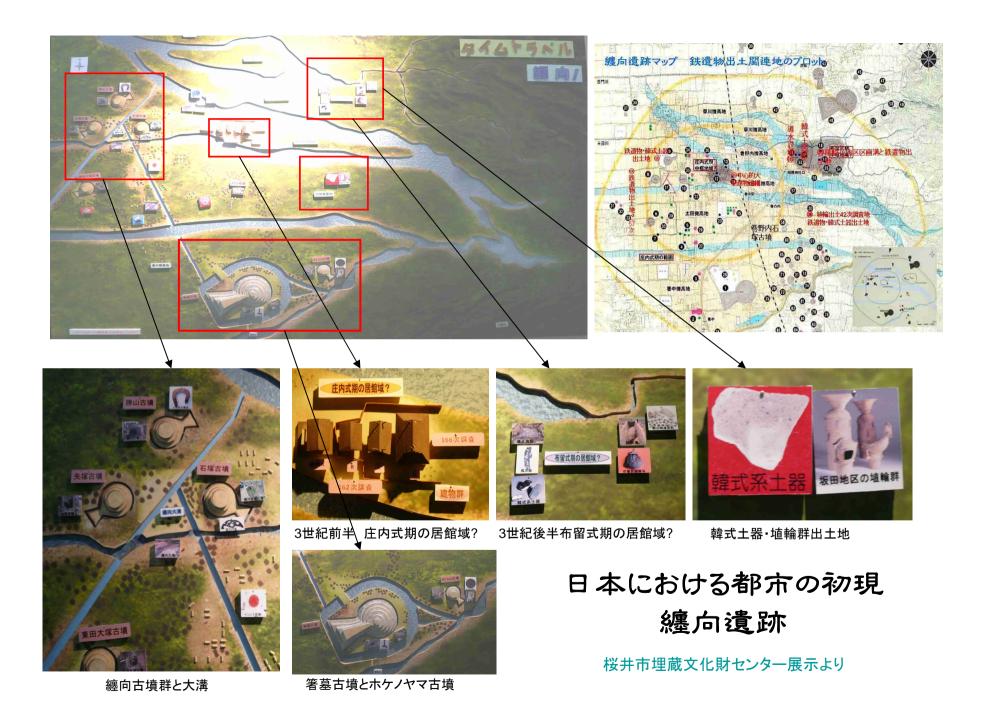




纏向古墳群と大溝

箸墓古墳とホケノヤマ古墳

桜井市埋蔵文化財センター展示より







太田の微高地 3世紀前半の居館域から出土したさまざまな祭りの木工具



纏向遺跡で出土した搬入土器

纒向遺跡の鉄生産

纒向遺跡では鉄素材を外部から仕入れた後に 製品を加工する工程の**小鍛治**が行われていま した。主な出土遺物には**鞴羽口や鉄滓・ 鍛造剥片・砥石**などがあり、その分布状況から は小規模な工房が遺跡内に散らばって生産にあ たっていたと考えられます。

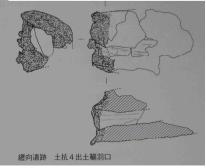
なかでも、鞴羽口は他地域との技術交流を示す資料として注目されます。出土した羽口には断面がカマボコ形をしているものが含まれており、これは纒向遺跡の鍛冶技術に<u>北部九州系の</u>技術が導入された結果と考えられています。



桜井市埋蔵文化財センター展示より



102次調査出土かまぼこ型羽口 橿考研「三国志の時代」図録より



一番気になっていた纏向遺跡から出土した鉄遺物は80次調査で巻野内から出土した3世紀後半の鞴羽口や鉄滓そして鉄器など。纏向では 鉄器のほとんどが土木工具と考えられる鋤が多数出土したと資料にあったのですが、イメージ的にどんなものが出土しているのか 気になっていましたが、大きな厚さのある立派な「鋤」。

こんな厚い大きな鉄が纏向に入っていたことにビックリ。一番の収穫でした。







纏向遺跡 80次調査で巻野内 尾花崎地区から出土した鉄器・鍛冶鉄滓・鞴羽口・砥石 3世紀後半のようだ



勝山古墳の南側の纏向小学校横の道との間の草地の土坑や溝から出土した3~4世紀頃の土器類

172次調査



展示を見たあと、纏向遺跡について色々教えてもらいました

1. 纏向遺跡では 人の暮らし・姿が見えない謎

やっぱり竪穴住居群を中心とする集落が今も見つかっていない

2. 展示されていた鞴羽口がカマボコ型にみえず、纏向ができた初期のものか

展示されていた鞴羽口は巻野内でしゅつどした3世紀後半のもの。3世紀前半と言われる勝山古墳横から出土したカマボコ型のものは橿考研が調査。

纏向での鉄遺物は他にもいろんな場所から出土している。

巻向駅北の県営住宅のところ また、169号線箸中の三輪そうめん山本の本社工場などからも出土

- 3. 鍛冶工房があったと言われるが その主たる鍛冶製品が見えてこない。出土している「鋤」だろうか??? 鍛工房跡そのものは見つかっておらず、どんな鉄器をつくっていたかは よくわからない
 - ◎ 纏向の隣 4世紀の物部氏の布留の鍛冶工房では祭祀に使う道具の加工工具が主であったように私には見えた。 その他 山陰・丹後・北陸では 勾玉などの珠加工の工具 四国阿波の矢野遺跡では朱の工具などそれぞれ目的 とするものの加工が弥生の終わりから古墳時代前期の鍛冶工房の主機能(実用鉄器)と見えたのですが、纏向で は北部九州の先端鍛冶技術がいちはやく入り、また大型鉄器の部類の「鋤」が出土する。

「半島の鉄素材の確保」がこの時代の鍵だと言われる古墳時代前期 この先端都市纏向でどんな鍛冶加工がと行われていたのか興味深々である。

- 4. 製鉄関連地名の「穴師」 鍛冶集団が祀る古い兵主神社もある。 本当に鉄が出たのだろうか 正確な場所は知らないが、、この巻向の谷筋の山の中に鉄穴があると聞く
- 5.3世紀に忽然と現れ、また、4世紀に忽然と消えた纏向

卑弥平の宮殿説 出土した大型建物の性格も その年代を含め、まだこれから。

纏向の発掘はまた 10%に満たない。 3世紀後半の中枢居館域と言われる巻野内の発掘調査もまだ これから

マスコミ報道などのイメージ先行の纏向 確かなところはまだ これから わからないのは 研究者も同じようだ。 纏向についての断片的なイメージを抱きながらの walk のスタートでしたが、櫻井の埋蔵文化センターで話が聞けたので、揺

れ動いていたイメージがはっきり。

わかっているのは、纏向が巨大な土木工事が行われた都市建設され、日本全国から多数の人が集まってきた痕跡がある。

そして、この纏向によって ヤマト王権を中心 です 最 とした統一国家づくり 古墳時代の幕開けとな ったことだけだ。

この纏向の当主は誰なのか また、この都市を 建設した人たちはどこに住んでいたのだろうか 纏向は まだ だれもよくわかっていないのだ。

今回は まず 前回は見られなかった纏向の 遺跡の全体像を見よう。 一気に遺跡の四方 の端まで行って また、全体が見渡せる場所 に立ちたい。 そして、やっぱり 鉄が出た 地点にも行って見ようと まず 国道 169 号線を北へ

纏向の南西の端 箸墓のある箸中へ行って あとは思いつくまま 気の向くまま纏向 walk と 埋蔵文化財センターで聞いた話を思い浮かべながら歩き出す。

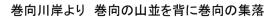
3世紀後半四極海衛

2012. 8. 23. 纏向再訪 walking map



国道169 箸中南周辺 流れ下る巻向川岸より 巻向の山並を眺める 左より 箸墓遺跡 巻向・穴師の集落 三輪山







北西側 箸墓古墳

国道169 箸中南周辺 東の山並から流れ下る巻向川・巻向の山並・箸墓を眺める

巻向川の橋を渡るとすぐに箸中南の十字路で、道の右手には田園の中に箸墓の墳丘が見え、その後ろには三輪山がそびえている。そして、箸墓の丘の裾を箸中集落への道が見えている。 私の知る箸墓の景色の中に入った。

国道の道脇には「箸中」のバス停があり、道の向こう 西側には奈良盆地の田園がひろがっている。







箸墓が田園の向こうに見える国道 169 号箸中南交差点

















三輪そうめん山本の入口

道の反対側にも街並み

三輪そうめん山本の中から箸墓を眺める







三輪そうめんの直売場とレストラン この中に ここから出土した遺物の展示コーナーがありました 三輪そうめん山本の本社工場の敷地は纏向遺跡の一部 この工場建設の調査で 数多くの遺物・遺構が出土した

十字路の向こう右側 広い敷地に三輪そうめん山本の看板が見える。 道の東奥に入っているので、全体の形はは見えず、全体がもう視野いっぱいに入っていて 森としか映らない。一方ここが、埋蔵文化センターで教えていただいた鉄遺物が出た纏向遺跡の一部で、道路側には食事ができる茶屋がついた直売場 その奥が向上になっていた。 ちょうど箸墓の正面である。





三輪そうめん山本 本社工場から眺めた箸墓 背後は三輪山 ここは纏向遺跡の南西端











三輪そうめん本社工場敷地から出土した鞴羽口 古墳時代前期

そうめんの太さにはいろいろあるが、三輪そうめんは超極 細で有名。

ここで それが食べられると聞いて 久しぶりに冷やしそ うめんの昼食をして walk を再開。 箸墓へ向かう。

ここからすぐ北が国道 196 号箸中の交差点で、国道はここで大きく右の巻向の山裾へカーブしてゆく。

正面の田園地帯には 幾つか古墳群が浮いて見えていて、いよいよ 巻向遺跡の核心部である。









箸墓の前 国道 169号 南側











北側から南方向に眺めた箸墓古墳



カーブする国道の正面 箸墓古墳北西角の周堤から眺めた箸中の交差点 北西側



交差点の正面には先日見た巻向小学校 左奥に生駒山 巻向古墳群が頭を出している

ここを西(写真右手)に入ると田園地帯を纏向石塚山古墳の方へゆく。西を眺めているイメージでしたが、見えている生駒山 の方向からすると 国道がここでカーブしているので、北東側を眺めている位置にいる。これで 見えていた建物群が東田で あると頭と一致する。道路のイメージで方向感覚がおかしい。地図と磁石がいる。 国道はここで大きく北東へカーブして、東の巻向の山並みの 方へ向かい、纏向の跨線橋を越 えて 山裾を北へ走る。

南側には 池の向こうに前方 後円墳 箸墓が堂々とした姿 で 影を池に映している。

でも この箸墓は纏向ができた3世紀前半にはまだない。 この位置で箸墓を眺めるのははじめてである。







南側からの箸墓

北側カラの箸墓

箸墓古墳 前方後円墳の対称性のあるきっちりした姿が眺められました



南側: 左から 巻向山・三輪山の谷から右端にホケノ山古墳・箸墓古墳が見える

巻向駅のすぐ南側 国道の陸橋より 巻向の町並みを眺める





巻向駅のすぐ東を南北に結ぶ街道 上ツ道





3世紀前半 纏向の中枢の居館域を南側から眺める

3世紀前半纏向の中枢 居館域を眺めながら西へ集落を抜け、 田園の中 纏向古墳群が並ぶ東田地区へ



国道を横切りまっすぐ西へ 北側には纏向小学校の右横に纏向石塚古墳校舎の後ろには勝山古墳の頭 校舎の左には矢塚古墳の森もみえる。 いずれも 箸墓よりも先に建設された古墳時代前期の纏向古墳群の古墳。

道を挟んで 反対側 南東側田園の向こうに箸墓が見え、北側には今抜けてきた巻向の集落が三輪・巻向の山々を背に見えている。

纏向 東田で



北側 巻向・三輪の山々を背に広がる巻向の集落



南東側には 国道の向こうに箸墓が見える







まっすぐ西へ伸びる道奥には広々とした奈良盆地が見渡せる遺跡西端 纏向東田の端。 左端には東田大塚古墳 右側には矢塚古墳が見えている。



田園の中のT字路で東側を振り向くと 巻向・三輪山を背に 広大な纏向全体がみえる。

田園地帯をまっすぐ西へ伸びる道奥遠く左には葛城-二上山 右端には生駒の山並 広々とした奈良盆地が見渡せる纏向遺跡の西端の纏向東田の端。 また田園の右端には東田大塚古墳 右側には矢塚古墳が見えている。

この両側に見える古墳を通りして、さらに西へ歩いて 田園の中のT字路で東側を振り向くと 巻向・三輪山を背に 広大な纏向全体がみえる。 二つの古墳が まるで 纏向への入口の門のように建ち、右端奥には箸墓も。 そして、正面 巻向・三輪の山間から流れ出た巻向川が幾筋もの流路となって 纏向の地を流れ下り、この東田のさらに西を南東から北西に流れくだる初瀬川(大和川)に注いでいたという。

纏向の人達はこの水運の地に大溝を掘り、水路をめぐらし、新しい人工都市を築いた。 出土する鉄器の大半が土木用の鋤だという。 でも、この遺跡には 人々の影がいまだに見えてこないと聞く。 これだけの人工都市に人の影が見えないのは、やっぱりこの纏向全体が王国の宮殿 特別な地だったのか・・・・ 遺跡地図を開いて この纏向の謎に思い巡らす。 まだまだ 纏向の発掘は10%にも満たない。 結論はまだまだ先になるだろう。



纏向東地区の西側 田園の向こう 左手金剛・葛城・二上山 右手生駒連山



纏向東田地区 纏向古墳群を眺める 田園の向こう 写真左端 勝山古墳・纏向小学校・矢塚古墳 右端 東田大塚古墳











纏向小学校の角の十字路から見る勝山古墳

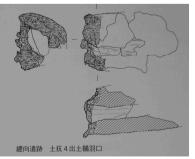
前回よく見なかった勝山古墳の周堤の西側の草地が左手に見える。 雑草の生い茂る草地であるが、どうもこの周辺の草地から周堤にかけてが鉄遺物特に北部九州との連携が検討されているかまぼこ型鞴羽口が出土した場所のようだ。





3世紀前半の鞴羽口ほか鉄遺物が出土した勝山古墳の西の周堤周辺の草地





朝鮮半島の鉄素材の覇権を巡って、北部九州に対抗するために西国諸国が連合したのが邪馬台国連合とする説がある。

その邪馬台国連合の王都が纏向とすれば、なぜ 北部九州の鉄の先端 技術が纏向にあるのか??? 土器の出土を 見れば、纏向には北部九州を含め西日本各地の人達が集まってきていた ようだ。

纏向での鉄の役割が纏向遺跡の性格をあぶりだす可能性がある。

左の写真上段中央が出土したかまぼこ型鞴羽口



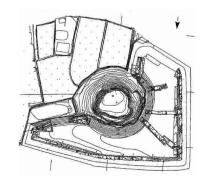
勝山古墳西の周堤の北端から南側を眺める



北側の周堤から眺めた勝山古墳全景



勝山古墳北側周堤の西端から東の集落を眺める



纏向古墳群の古墳形状は 纏向型と呼ばれる後円部 が前方部に比べて 大きく かつ高い特徴を有し、

ざっと概観を見ただけでは その形状が前方後円墳で 在るとは見えない。



国道の東側大田の集落に入って 北東側から 纏向石塚古墳・纏向小学校・勝山遺跡を眺める

3世紀後半 纏向遺跡の中枢居館域が東側 巻向・三輪山の山裾に移った地域である。



東側の山裾に広がる巻野内地区遠望 また 勝山古墳の前方部が池の向こうに見え、その低さがよく分かる

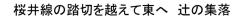


勝山古墳の周堤を一周して、 国道の東側へ









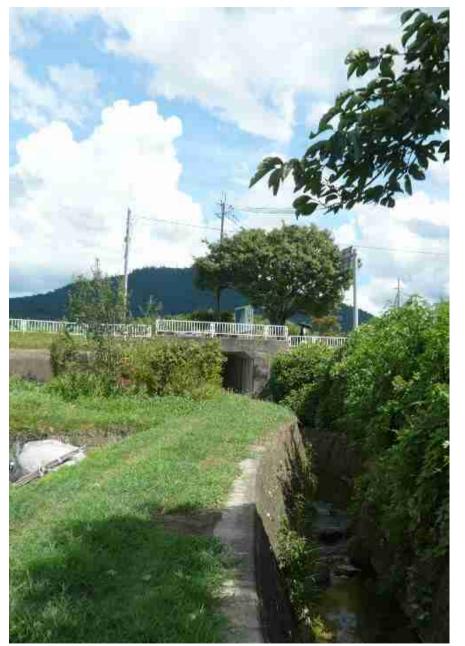




上つ道をそのまま横切って 水路沿いを東の山裾へ

纏向古墳群の東田地区からまっすぐ東へ 3世紀後半の中心地となった巻野内地区から遺跡東端穴師兵主神社へ









南北に国道169が走る巻野内 この道路の東側が3世紀後半の纏向中枢地域







3世紀後半纏向の中枢域居館となった巻野内を国道より眺める

正面の巻向・三輪山の間を流れ下る巻向川の扇状地上部で幾つも丘が並ぶ傾斜地で一番奥が鉄と関係深い穴師 国道の近くからは導水施設遺構 そして前面に広がる居館域からは鍛冶・木工の工房があったと推定される遺物が出土







南側から景行天皇陵そして纏向3世紀後半の居館域が眠る印円地帯を眺める





辻北の信号から東 巻向の山裾へなだらかな坂を登る この道の一番奥が穴師







左手 田園の奥に景行天皇陵

正面奥 群珠城山古墳群と三輪山

右手奥 巻野内の集落

穴師の集落の入口の坂道 左手田園の奥に景行天皇陵 正面家の後に古墳時代後期6世紀の 古墳群珠城山古墳群と三輪山 右手には田園の向こうに箸中の集落が見える 3世紀後半の纏向の中枢居館域にいる









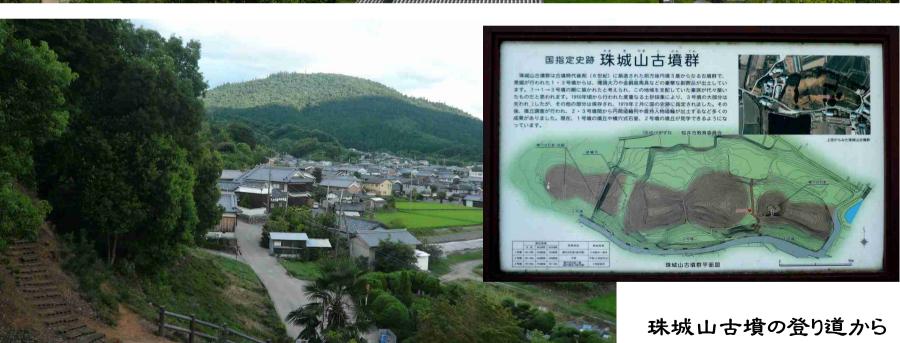




穴師 珠城山古墳群横の坂道 穴師の枝尾根山腹の坂道で







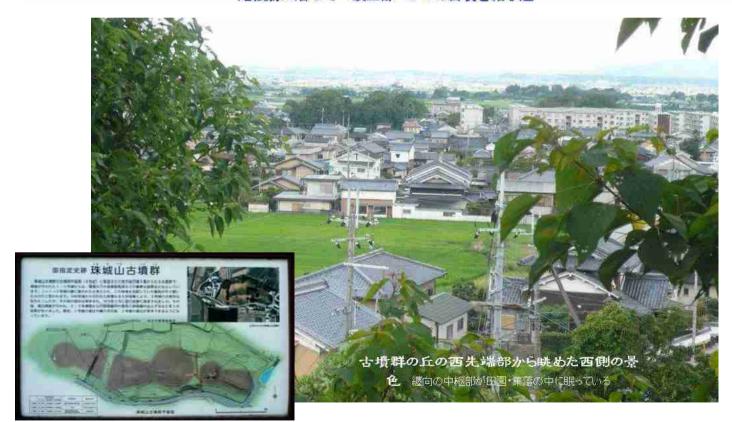
眺める穴師の集落



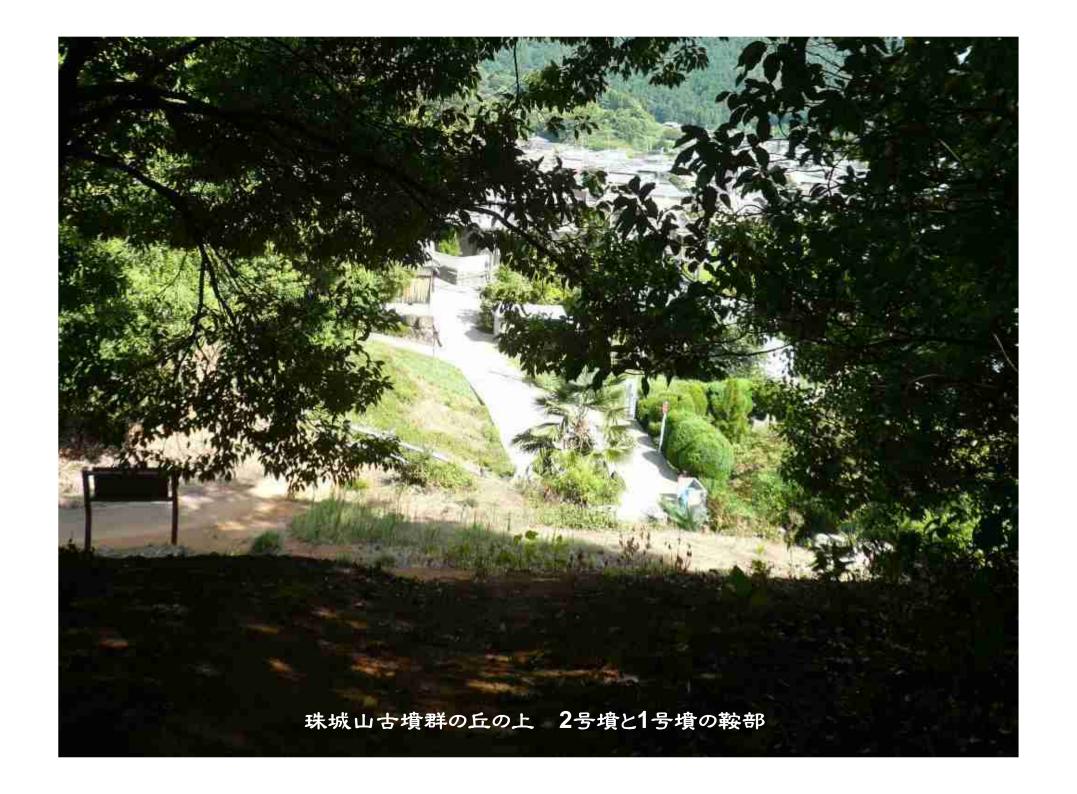




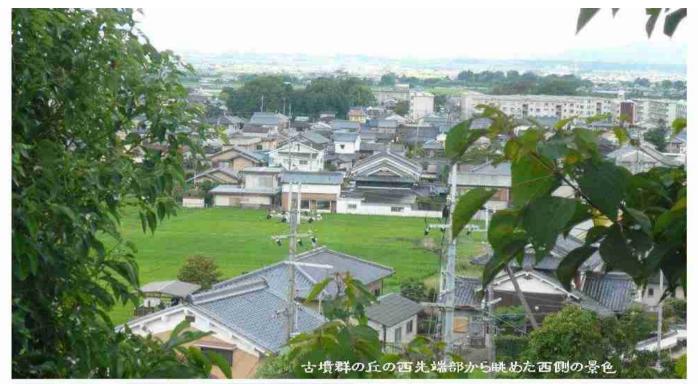
尾根筋に沿って 頂上部 3つの古墳を結ぶ道













古墳の北側 景行天皇陵の前に巻野内尾崎花地区 3世紀後半の纏向居館中枢域である



古墳の南側 東に広がる穴師地区の集落の端が見えている









穴師 珠城山古墳群の丘から眺める 巻野内 尾崎花地区 3世紀後半の中枢居館域 巻野内 尾崎花地区





穴師 珠城山古墳群の丘から眺める 南側の扇状地

集落を更に奥へきつくなった坂道を抜けてゆくと 両側に果樹園が広がる丘の上。

纏向遺跡が高い場所から見晴らせる展望地から兵主神社へと丘の上の一本道 振り返ると眼下に纏向から奈良盆地が 見え隠れしている。 程なく 纏向遺跡の展望所 。

かつて 日本初の都市出現の纏向イメージ図に眼前に広がる展望を見ながら ビクリした場所です。





穴師の集落から更に東の山の奥穴師 兵主神社へと続く道













穴師の集落を抜け、果樹園の広がる道をさらに登ると纏向が見渡せる展望地





穴師 兵主神社鳥居前の田園地から眺める纏向





穴師 兵主神社鳥居前の田園地から眺める纏向





穴師 兵主神社の石の鳥居前 鳥居をくぐると境内の森の中へと続く そのすぐ右脇には相撲神社がある













「穴師」とは、第11代垂仁天皇が技術を持つ部族に与えた10個の品部の1つ、穴を掘り、採掘して鉄を得る部族である大穴磯部(おおあなしべ)をさすと考えられている。

この地に居住していた武器などを作る 鍛冶の技術に熟達した「穴師」たちが、 その守護神として祀ったのが穴師坐 兵主神社と考えられます。





穴師の里へ下る道から眺めた纏向 3世紀後半の中枢居館域 巻野内尾崎花地区 遠望

毎度 登ってくるたびに 素晴らしい景観に見とれる素晴らしい景色 生駒山に雷雲がかかり、雨がやってきそう。

ここから 南西側の箸中のホケノ山の方へトラバースして 箸中から桜井へ出ようと 纏向の景色を眺めながら下る。

ここにも 纏向を舞う赤とんぼ まもなく秋を感じる景色です

一方 纏向からこちらへ 雷雲がもうスビード 雨の前に ホケノ山へゆけるだろうか・・・・











穴師の山裾から箸中ホケノ山古墳へ 纏向の扇状地を南西へ下る







ホケノ山古墳から北西側 纏向遺跡 全景











ホケノ山古墳から北西側のパノラマ 纏向古墳群を眺める

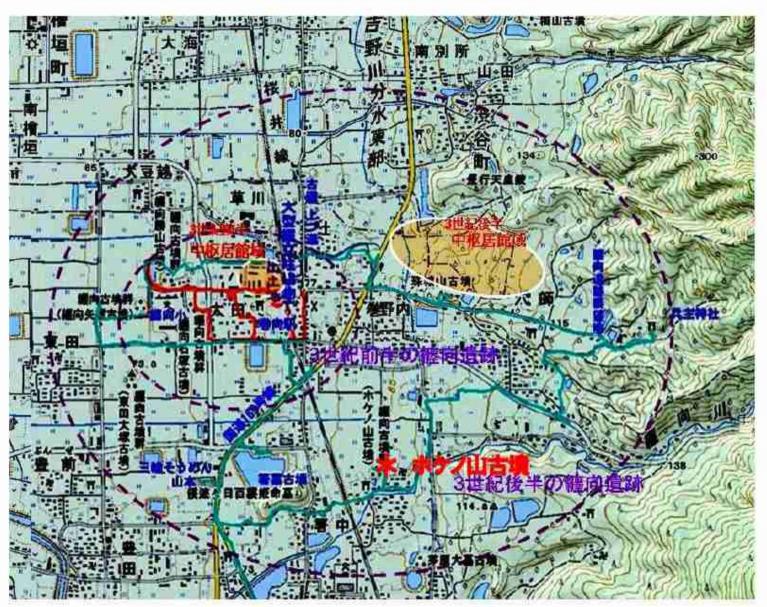




ホケノ山古墳 南 & 南東側の展望 山や丘に邪魔されない纏向全体の展望はホケノヤマ古墳が一番でした



【 ホケノ山古墳 墳丘の上から眺めた 360度の纏向遺跡 遠望 】





箸墓がある箸中地区 西方向



纏向小・県営住宅・纏向古墳群などが浮かぶ東田地区と3世紀前半の中枢部纏向大田・辻地区周辺遠望 北西方向

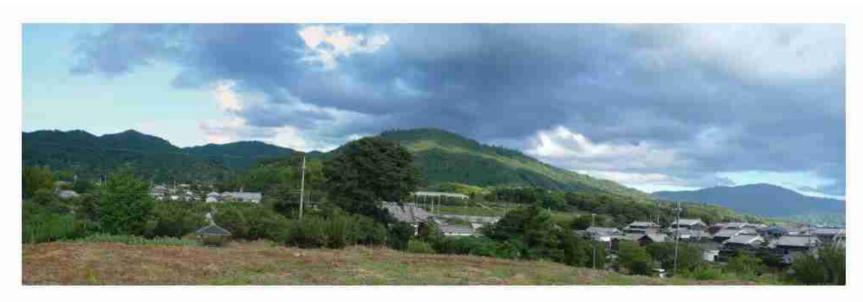


中央右に巻野内石塚山古墳が見える太田・辻地区から巻野内の西側地区 北方向



後ろの山並みの下見えていないが3世紀後半の中枢部巻野内の東側地区と穴師

北東方向





ホケノ山古墳からは山に隠れて眺められない北東側 3世紀後半纏向の中枢地区 巻野内 尾崎花地区





















まだ 何も謎は解けませんでしたが、纏向遺跡はまだまだ謎の面白い遺跡 責色はいいし、ゆったりと歩いて 古代のロマンにイメージを膨らませるのにはうってつけ。

「纏向遺跡の人の顔が見えないのですが・・ また、鉄器ももっと出て ません??? 」と訪ねた桜井市埋蔵文化センターで「我々も本当に不思 議ですが、集落跡がでていません」と聞いて頭の中すっきり。

纏向はまたまた。古代のロマンを掻き立てられる場所。

わたしの妄想ですが、縄文人が作ったストーンサークルの古墳時代前期版 が纏向では????と・・・・

「纏向は この頭状地全体が連合諸国共同の宮殿-祭祀の場で

一般人が足を踏み入れなかった禁則の場だった。

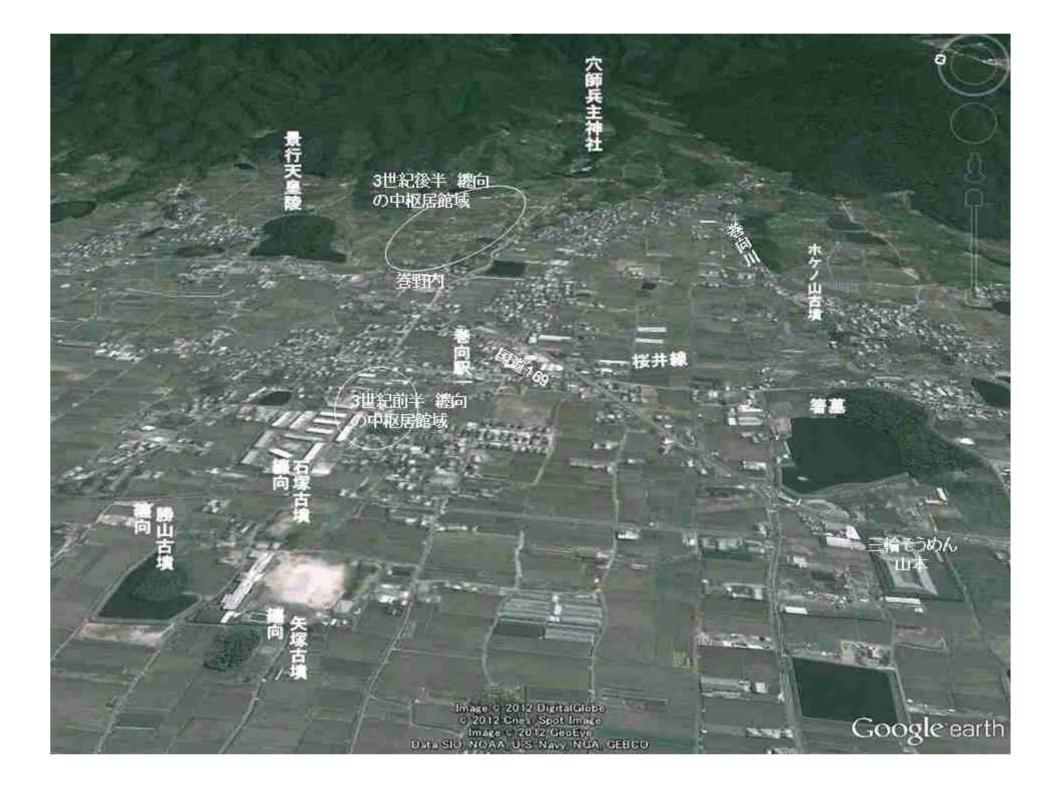
そのとてつもない大きさが見えず 人の姿がみえないのでは???」と。 この時代 まだ 祀り 祭祀が国を治めてゆく基本であったろう そう考えると 連合した国々がこの祭祀の場建設に人・資材を多数送 り込んでこの纏向を建設。

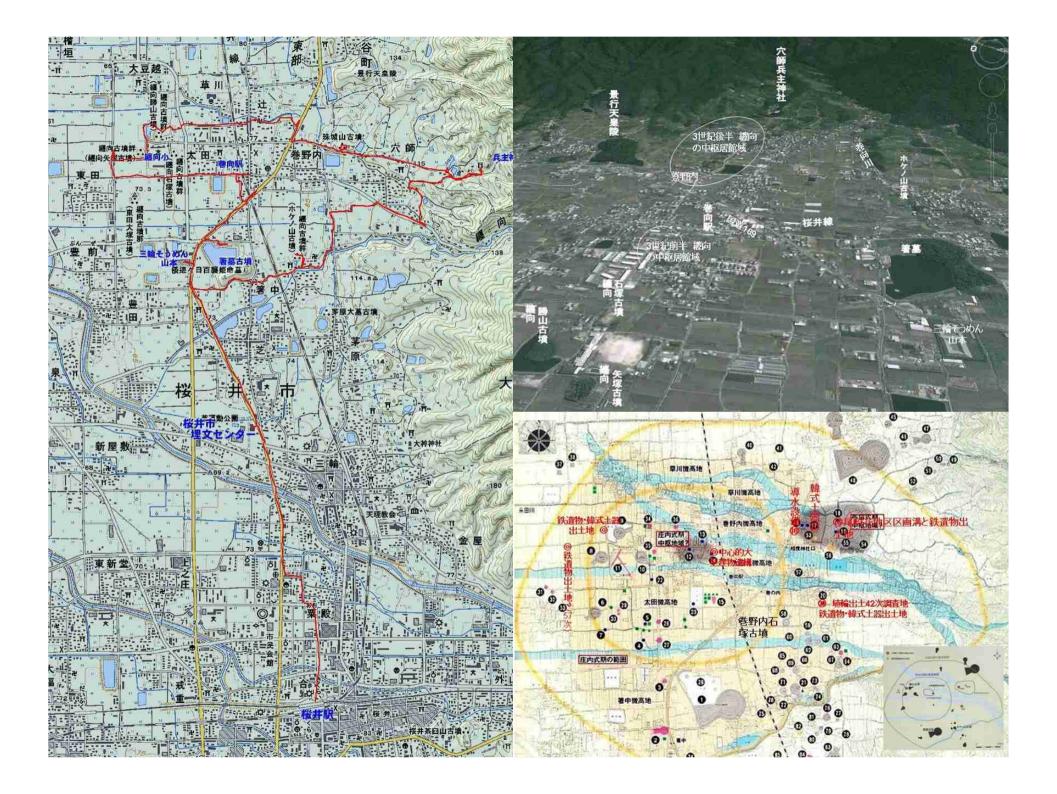
これが本当なら都市の謎もとけるし、スケールの大きさはすごい まだまだ 面白いことがありそうな 纏向 続けて通ってみようと・・・・。





2012.8.23. 雪鳴轟く 帰り櫻井駅へのバスの中で by Mutsu Nakanishi







【参考】

【和鉄の道】

1. 鉄のモニュメント 奈良 三輪山 大神神社の大鳥居

久しぶりに巻向・三輪 三輪山山裾を歩く

2011. 8. 2.

http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron09.pdf

2. 初期ヤマト王権を支えた物部氏の本拠地「布留遺跡」再訪 Walk

2012. 5. 19.

今まで 布留遺跡に抱いていたイメージが随分 変わりました

http://www.infokkkna.com/ironroad/2012htm/iron8/1206furu00.htm

【主な取りまとめ資料】 主にインターネットならびに纏向遺跡が記載さていた図録より 資料取りまとめました

- 1. 桜井市教育委員会 橋本輝彦氏 講演レジメ「日本における都市の初現 纏向遺跡」
- 2. 纏向古墳群・箸墓の年代測定についての資料 新井宏氏・鷲崎弘朋氏・歴博 資料&図
- 3. 村上恭通「古代国家成立の過程と鉄器生産」
- 4. 権考研博物館「三国志の時代 2・3世紀の東アジア」展図録
- 5. 桜井市檀向学習センタ home page 纏向遺跡

http://www.city.sakurai.nara.jp/maki_c/info/iseki.html